

令和3年度香美市教育委員会  
施策に関する点検・評価報告書

令和5年1月31日  
香美市教育委員会

## 点検及び評価の概要

平成20年4月1日に施行された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正に於いて、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないこととされました。

この改正は、効果的な教育行政を推進し、住民の皆様への説明責任を果たしていくことを目的としたものであり、具体的には、教育委員会で、自ら設定した教育に関する基本的な方針や地域の課題等に応じて、教育行政がどのように執行されているのかを点検・評価することになります。

香美市教育委員会は、平成26年度の教育行政方針を基に、「心豊かな人づくり、人権尊重を核としたまちづくり」を推進しています。市民一人一人が、国際化、情報化、高齢化等の社会の変化に対応し得る能力を身につけ、心身ともに健康で調和のとれた人間形成を自ら成し遂げ、自己実現が図れるように、生涯学習の推進体制や環境を整備し、「学びをたのしむ人々が育つ風土づくり」に努めてきました。

このたび、令和3年度の取り組みに対し、自己点検・評価を行うとともに、評価内容の客観性を確保するため、学識経験を有する点検・評価委員から、今後の教育行政の推進についての意見・提言を受けました。これらを「令和3年度香美市教育委員会施策に関する点検・評価報告書」として公表いたします。

教育委員会の点検・評価制度の実施により、教育委員会自らがその成果や課題を確認することで、今後の施策改善に反映させるとともに、目指すべき方向についてより具体的なそして効果的な教育行政の推進を図ることとします。

## 点検及び評価の構成

平成20年4月1日に施行された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正により、市教育委員会では、効果的な教育行政を推進し、市民への説明責任を果たすことができるよう市教育委員会が行う事務の管理・執行状況について点検・評価を実施し、その結果をとりまとめました。

(評価の判断基準)

評 価	判 断 基 準
4	想定以上に成果が得られた。
3	概ね想定どおりの成果が得られた。
2	成果が得られたが、改善の必要がある。
1	成果が得られず、見直しの必要がある。

外部からいただいたご意見

点検・評価の客観性を確保するために、学識経験を有する外部の方を点検・評価委員として、ご意見、ご助言をいただきます。

氏 名	所 属
福石 賢一	高知工科大学教授

結果の公表

- (1)点検・評価の結果については、議会へ提出します。
- (2)市民には、ホームページにより公開します。

## 令和3年度 外部評価

本報告は、地教行法改正に伴い平成20年度より開始された香美市における教育委員会の施策に対する評価の14回目の報告となる。また本評価の対象である令和3年度は平成26年度を初年度とする香美市教育振興基本計画・後期の3年目に当たる。本評価に当たっては、これまでと同様、市教育委員会から各種資料を提供頂いた。このことに対しこの場を借りて関係各位に謝意を申し上げる。

さて本評価は上に述べた香美市の教育振興基本計画に基づいて策定された36の取組・事業を主たる対象とする評価の結果である（取組・事業数は一昨年度の見直しの結果、それまでよりも大幅に厳選された）。香美市教育委員会は、市の教育振興基本計画に基づき、その基本理念である「郷土を愛し、未来を拓く人づくり」の下、「1.主体的に学び、社会を生き抜く力をもった人材を育てます」、「2.市民が協働し、ともに支え合い、高め合う地域社会を築きます」、「3.夢を育み、新たな価値を創造する教育を展開します」の3つの視点から取組・事業を計画、実施している。具体的には、視点1については学力向上、徳育・体育、幼小連携、いじめ・不登校対策、教員・管理職研修等に関する14事業、視点2については地域での体験活動、食育、子育て支援、地域連携等に関する10事業、視点3については国際バカロレア教育、ICT教育、市内の高校及び大学との連携、生涯学習、教員の働き方改革等に関する12事業が配当され、総計36の取組・事業から構成されている。

これらの取組・事業については各取組・事業毎に、まず教育委員会自身が内部評価を行いそれぞれに1～4の評価点を付すこととなっている（評価の基準は上記の通り。一昨年度より4件法に変更）。今年度の評価点の分布は4点が0（昨年度0、一昨年度3。以下同様）事業、3点が23（24、25）事業、2点が12（10、8）事業、1点が1（2、0）事業で、36事業中23（24、28）事業、割合にして64（67、78）%の取組・事業に3点（＝「概ね想定どおりの成果が得られた」）以上の評価点が与えられている。全体の平均は2.6（2.6、2.9）点で、視点毎の平均はそれぞれ視点1が2.8（2.9、3.1）点、視点2が2.5（2.5、2.8）点、視点3が2.5（2.4、2.6）点となっている。各種資料をふまえて外部評価者が行った評価においては36事業中26（25、29）事業、72（69、81）%の事業が3点以上であると判断され、平均点は2.8（2.7、2.9）点であった。これらの数値は昨年度と同様にそれ以前に比べて全体にやや低い評価となっている。これはもちろん令和2年に始まった新型コロナウイルスの感染拡大に大きく関係している。コロナウイルス感染拡大の影響をどの程度考慮して評価を行うかということについては、内部評価において事業・取組により多少の揺れが見受けられるが、外部評価においては昨年同様、原則としては純粹に結果を基準としつつそこにコロナウイルス関連の影響を一定程度加味するという方針で数値評価を行っている。このような評価方法によって得られたものが上記の評価点であり、それがコロナ以前に比べて全般的に低下するのは致し方ないことと思われる。しかしながら総体としては、今年度の香美市の教育振興基本計画に基づく教育委員会の各取組・事業は、昨年同様、難しい状況の中、工夫と努力により計画の遅れが最小限となるよう進められたものと判断する。

なお、このことを確認したうえで、以下本年度の施策に対する新型コロナウイルス感染拡大の具体的な影響、ならびに視点1～3における概況について確認しておくことにしたい。

### <新型コロナウイルス感染拡大の影響>

上に述べたように、新型コロナウイルスの感染拡大は、今年度の施策に対して大きな影響を与えた。その影響を受けた主なものを拾い上げて列挙してみると次のようになる：

・各種研修や体験・交流活動等の中止または実施回数、参加者数の減少 / ・校内における児童生徒の居場所確保の難航 / ・ふるさとプログラムの縮小実施、いざなぎ流講演中止、吉井勇記念館等の入場者数減 / ・子育て広場の一時中止 / ・子ども教室の開催減少 / ・地域学校協働活動の実施延べ日数減 / ・地域・保護者との防災訓練中止 / ・子ども会関係活動減 / ・工科大学生による学習支援減 / ・生涯スポーツ各種イベントの中止、運動施設利用者数減 / ・公民館実施事業参加者数減 / ・人権講演会及び人権教育研究大会の中止

このように外的要因である新型コロナウイルスの感染拡大は、視点1から視点3にわたる多くの取組・事業の実施を妨げることになった。これは不可抗力であり、外部評価者はこの理由による計画の遅延は致し方ないものとする。しかし、本市教育委員会はそのような状況の中でも、各部門において出来ることを探りながら、影響を最小限に抑えるべく取組・事業を進められてきたと考える。とりわけ本年度は、令和2年度には中止となっていた活動をオンデマンド教材やオンラインの活用等により再開させたものが多くみられたが、これはコロナ禍が継続するなかでICT等を積極的に利用しつつできることをやっというところとする本市教育委員会の姿勢の証左であると思われる。

<視点1：主体的に学び、社会を生き抜く力をもった人材を育てます>

視点1においてはまず、不登校担当教員配置サポート事業等への取組が行われたものの、全体として長期欠席児童生徒の出現率が依然高止まりしていることが気にかかる。コロナ禍の影響をどう評価するかについては難しいところがあるが、引き続き状況を注視していく必要があるように思われる。また本年度は、昨年度中止となった全国学力・学習状況調査が実施された。これは実質的には前年度までの教育成果等を測定するものであり、その結果はコロナ禍初年度である令和2年度の成果を表していると考えられる。結果として委員会が設定した目標には届かなかったものの概ね全国平均と同程度の成績であった。但し、全国平均そのものもコロナ禍の影響を受けていると考えられることから、全国を対象とした分析と突き合わせながら本市の子供たちの状況について分析を進める必要があるだろう。加えて、昨年度全体的に低下が見られた子どもたちの生活習慣・運動習慣に関する指標のうち、今年度一週間の運動・スポーツ実施時間においてさらなる後退が見られた。このことに関してもコロナ禍の影響に関する全国的な分析と突き合わせつつ状況を注視していく必要があると思われる。

<視点2：市民が協働し、ともに支え合い、高め合う地域社会を築きます>

視点2に関しては、上に見たように、中心となる施設の入場者やサービスの利用者の減少、ならびにイベントや活動の中止等のため昨年同様今年度も思うように事業・取組を進めることができなかった。但し、令和2年度に比べると子育て広場や子育て相談・援助等のように工夫をしながら実施されたものも増加した。各事業・取組のなかでもとりわけ就学前の子どもたちの親に対する子育て支援は相対的に重要度が高いと考えられるため、引き続き支援を滞らせない工夫を講じていくことが期待される。

<視点3：夢を育み、新たな価値を創造する教育を展開します>

視点3においては、国際バカロレア教育の推進と新図書館の開設準備が着実に進められたが、全体としては昨年度同様、生涯学習関係施設・イベントの閉鎖・中止や来場者・参加者数の減少、ならびに高知工科大学との連携活動の縮小等、コロナ禍の直接的な影響を受けた事業・取組が多かった。働き方改革も道半ばであると自己認識されている。そうした中、コロナ感染拡大を受けて前倒しされたGIGAスクール構想に基づいて児童生徒に配付されたタブレット端末の活用等、ICTの利用については一定の進展が見られた。これについては今後のコロナの状況に関わりなく、さらなる進展が望まれる。

昨年度は年度開始直前から生じた未曾有の非常事態の中、手探りでの対応を迫られた。本年度は引き続き新型コロナの感染が収まらない中、ICTの活用等さまざまな工夫によりできることから事業や活動を実施していく努力が見られた。今後withコロナが続くのか、afterコロナとなるのか、見通しをたてることはできないが、コロナが人間の都合に配慮することはない以上、状況に応じて工夫をしつつできることをやっというところとする本市教育委員会の姿勢の証左であると思われる。引き続き本市職員の皆様のご尽力に期待したい。

<視点1>

主体的に学び、社会を生き抜く力をもった人材を育てます

【関係性】到達目標の達成状況 A:4.3 B:3.2 C:1

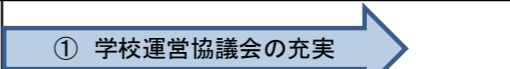
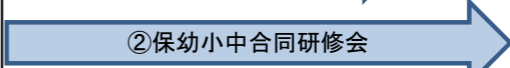

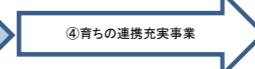
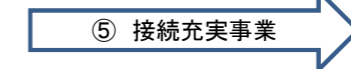





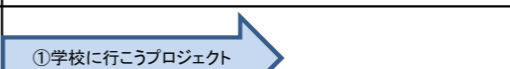

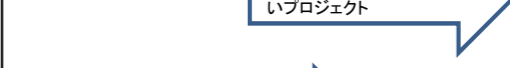
(1) きめ細やかな教育・保育の推進と体制整備

行動実績・到達目標の達成状況の内部評価

内部評価

A:目標(予定)を達成できた、B:目標(予定)を一部達成できなかった、C:目標(予定)をほとんど達成できなかった

4:想定以上の成果、3:概ね想定どおりの成果、2:成果が得られたが改善が必要、1:見直しが必要

対策名	取組の概要	年度当初の現状 (課題等)	具体的な到達目標 (有るべき姿・望ましい状況)	具体的な取り組み (計画・実施)	行動実績	到達目標の達成状況	内部評価	R1	R2	R3	R4	R5	令和5年度末達成目標 (後期到達目標)
① 0歳から15歳までの発達段階に応じた保育・教育の推進 (学保)	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校運営協議会(CS)で、各学校の「めざす子どもの姿」の作成</li> <li>大学教授等を招聘した研修会の実施(保幼小中合同研修会)</li> <li>保小連携、小小連携、小中一貫教育の推進</li> <li>個別支援が校種間で切れ目なく引き継ぐための接続支援の実施</li> </ul>	1.各学校運営協議会で目指す子どもの姿に向けた取組を実施(10校) 2.各中学校区において、「目指す子どもの姿」を明確にし、その実現のためのグランドデザインを香北中学校区、大柄中学校区で作成した。鏡野中学校区は検討中である。今年度はグランドデザインに基づいた取組を推進する。 3.「自分にはよいところがあると思いますか」肯定的評価(R2県学調)※R2全国学調未実施 小6 79.6%(県73.9%) 中3 76.1%(県76.1%) 4.引き継ぎシート等を活用した引き継ぎが行われた児童生徒の割合(第3期県教育振興基本計画状況調査) 保 100%(県92.0%) 小 100%(県88.5%) 中 100%(県34.7%)	1.各学校運営協議会(CS)で、目指す子どもの姿に向けた取組を実施する。(昨年度の反省をもとに目標を設定し取組を協議・実施) 2.各中学校区のグランドデザインに基いた一貫教育推進への研究がスタートする。 3.「自分にはよいところがあると思いますか」肯定的評価(全国学調)小中ともに全国平均値以上 4.引き継ぎシート等を活用した引き継ぎが行われた児童生徒の割合100%	1.各学校運営協議会(CS)で、目指す子どもの姿に向けた協議・取組を実施しPDCAを回し、課題への解決を行う(地域学校協働本部の活動含む) 2.一貫教育推進研究会(「香美市学びをつなぐ学校づくり研究会」)の開催 3.小1・中1生の見届け訪問、年中・年長児事前把握と情報収集の実施 園長会・校長会の合同研修会の実施 4.引き継ぎシートの活用と引き継ぎ支援会の実施	【評価 B】 1.各学校運営協議会(CS)で3～6回実施(地域学校協働本部総会実施(3校)) 2.香美市学びをつなぐ学校づくり研究会の実施(6月8日、8月31日、1月19日) 3.研究所と共に、4～6月に小1・中1の見届け実施。園長・校長による合同の研修会を3回実施(6月9日、10月1日、1月6日) 4.教育相談実施者や支援ファシリテーターの引継ぎシート(作成率100%)を使った引継ぎの実施。	【評価 B】 1.実施は概ね年間計画に沿って行われていたが、コロナにより開催できない学校もあった。内容については、児童生徒の体力・健康や、SNSやスマホの使用に関する議題が多かった。 2.各中学校区の一貫教育グランドデザインが完成し、小中9年を繋ぐ研究をスタートさせることができた。今後、学校運営協議会ともグランドデザインを共有し、ベクトルを合わせていく。園長・校長の合同研修会を年間3回開催することで、目標・課題の共有は図られているので、次年度は協議の場を設定しより充実した研修をしていきたい。 3.「自分にはよいところがあると思いますか」肯定的評価(R3全国学調)小6 79.5%(全国平均 76.9%)、中3 84.0%(全国平均76.2%) 4.引き継ぎシート等を活用した引き継ぎがおこなわれた児童生徒の割合100%	3	3	    	各中学校で「育てたい子ども像」に基づいた小小連携、小中連携教育への体制づくりが進む。また、鏡野中学校区では、山田小学校を軸とした小小連携が充実し、中学校への円滑な接続が行われる。 1.「自分にはよいところがあると思いますか」 小6・中3 87%以上 2.各中学校区で系統的な連携プログラムの作成 100%			
② 共生社会をめざすインクルーシブ教育の充実 (学校)	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内支援会を機能させた組織的な 校内支援体制の確立</li> <li>教職員の資質・専門性の向上</li> <li>特別支援学級・通級指導教室・通常学級への指導・支援の充実</li> <li>就学や進路相談体制の充実</li> <li>山田特別支援学校のセンター的機能や各種サポート事業の活用</li> <li>効果的な交流教育の実践研究</li> <li>専門性の充実した総合教育支援センター設置に向けた研究の推進</li> </ul>	1.校内支援会において専門家の見立てを基に支援方法を決定している学校(県人権教育・生徒指導に関する取組状況調査R2年度)十分できている 3校 おおむねできている 7校 2.障害の状態の多様化が見られる中、特別支援教育に関する教職員の資質・専門性の向上、より早期からの指導・支援の体制づくりの推進が必要。(新任特別支援学級担任研修受講者9名) 3.総合教育支援センター設置に向けて具体的な検討組織が立ち上がっていない。	1.校内支援会(個別ケースを含む)を月1回以上実施し、専門家(SC・SSW等)の見立てをもとに支援方法を決定する。(県人権教育・生徒指導に関する取組状況調査R3年度)十分できている 4校以上 2.山田特別支援学校のセンター的機能や各種サポート事業を活用。 3.総合教育支援センター設置に向けて、具体的な検討ができる場の設定。	1.年間計画通り校内支援会を実施し、支援の必要な児童生徒への教育的支援を検討する。 2.山田特別支援学校から講師を迎えた研修実施。(教育支援員研修・発達検査等理解研修) 3.総合教育支援センター設置に向けた組織づくりと役割分担。	【評価 B】 1.各校の校内支援会は月1回以上実施。外部専門家を活用した支援体制充実事業を活用し、校内支援会の持ち方を研究(2回) 2.山田特別支援学校から講師を迎えた研修(2回) 3.総合教育支援センター設置は計画の見直しを検討。	【評価 B】 1.第3期県教育振興基本計画に関する特別支援教育の状況調査より:環境整備(100%)手立て(100%)授業づくり(100%)学校経営計画(100%) 2.専門家(SC・SSW等)の見立てをもとに支援方法を決定する。(県人権教育・生徒指導に関する取組状況調査R3年度)十分できている 6校 2.サポート事業講師、専門研修講師としての活用率(100%) 3.後期教育振興基本計画重点項目を検討する際に協議。	3	3	    	障害の有無にかかわらず、個々の子どもの特性や、家庭のニーズに応じたオーダーメイドの支援や合理的配慮が提供されるときも、誰もが輝いて生きる共生社会の実現に向けた総合教育支援センターの設置を目指す。 1.個別の指導計画・支援計画の両方をもとにした指導・支援が行われている:小中ともに100% 2.全ての学校で校内支援会を月1回以上実施 3.個別の指導計画に基づいた指導が充分に行えた 小中3.20			
③ 不登校対策 (学校)	<ul style="list-style-type: none"> <li>アウトリーチ型SC、学校配置SC、SSWと連携して、個々の状況に応じた支援の実施</li> <li>教育支援センターの施設や機能の向上</li> <li>引き継ぎシートにより抜かりのない情報共有と温かい学級づくり研修の実施</li> <li>SC等を講師とした児童生徒理解に関する研修の実施</li> <li>支援記録や支援計画等を記載したシートを活用し、課題に応じた支援の実施</li> </ul>	1.小学校の不登校児童が増加傾向。(R2年度17名/出現率:1.56%) 2.中学校の不登校生徒出現率は高止まりで、小学校で回復していても再度出現する生徒もいる。(R2年度38名/出現率:8.05% 中学校) 3.課題として、小中学校ともに新規者が出現している。(R元年度新規者20名/発生率36.7%)前年度比(-8名)	1・2.小中学校の不登校児童数を3分の2(37名)以下に減らす。 小中出現率:2.35%以下(前年度小中出現率:3.52%) 3.小中学校新規者の出現が19名以下	・教育支援センタふれんどうの学校訪問等を増やす。 ・各校の不登校担当者を活用。 ・校務支援システムの活用により、児童生徒の遅刻、欠席状況の把握、早期対応。 ・山田小学校に不登校担当教員を加配。(不登校担当教員配置校サポート事業2年目) ・引き継ぎシートによる抜かりのない情報共有と支援ツールを活用した課題に応じた支援の実施。 ・鏡野中学校に魅力ある学校づくり推進リーダーを加配。(魅力ある学校づくり調査研究事業:2年目研究成果の発表会11月)	【評価 B】 1.教育支援センター「ふれんどう」の学校訪問(学期毎) 2.校務支援システム活用による状況把握と早期対応(全小中学校) 3.引き継ぎシートの活用(100%) 4.魅力ある学校づくり調査研究事業調査研究委員会(4回)担当者会(3回)研究発表会(1回)アンケート(3回)実施。	【評価 B】 1・2.小中学校の不登校児童生徒数:12月末現在で20日以上児童生徒が50名(小学校21名・中学校29名)現段階で30日以上を目標の37名以下にするのは達成できない見通し。 3.小中学校新規者20日以上の出現が12月末段階で18名 緩やかに減少傾向ではあるが、人数的にまだまだ多い現状。新規者の減少には成果が見られ、魅力ある学校づくりには継続して取り組みたい。	2	2	  	校内支援会において児童生徒ごとのリスクレベルを判断し、専門家からの助言も取り入れて適切な見立てを行い、その見立てをもとに組織的に対応する。 1.長期欠席児童生徒出現率、平成27年度以下、中学校は高知県並み「小1.17%、中 6.18%」以下 2.中1ギャップ解消に向けて組織的な小中連携の取組が行われている学校の割合:小中70%以上			

<視点1>

主体的に学び、社会を生き抜く力をもった人材を育てます

【関係性】到達目標の達成状況 A:4.3 B:3.2 C:1

(1) きめ細やかな教育・保育の推進と体制整備

行動実績・到達目標の達成状況の内部評価

A:目標(予定)を達成できた、B:目標(予定)を一部達成できなかった、C:目標(予定)をほとんど達成できなかった

内部評価

4:想定以上の成果、3:概ね想定どおりの成果、2:成果が得られたが改善が必要、1:見直しが必要

対策名	取組の概要	年度当初の現状 (課題等)	具体的な到達目標 (有べき姿・望ましい状況)	具体的な取り組み (計画・実施)	行動実績	到達目標の達成状況	内部 評価	外部 評価	R1 R2 R3 R4 R5					令和5年度末達成目標 (後期到達目標)
									①児童生徒等自立支援教室 ②児童生徒自立支援教室の充実 ③いじめ防止対策の充実					
④ いじめ対策・問題行動対策 (学育)	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒等自立支援教室の開催。</li> <li>教育相談活動の充実。</li> <li>開発的な生徒指導に関する知識理解を深められる研修会や校種間連携の推進に向けたチーム学校としての組織的な取組の推進。</li> <li>「香美市いじめ対策基本方針」に基づく、きめ細やかな支援。</li> <li>PDCAサイクルによる迅速な対応と取組評価を実施。</li> </ul>	1.集団づくりに関する取組を行い、望ましい人間関係の構築や安心できる居場所づくりにつなげている:レベル2(4件法:チーム学校チェックシート) 2.「いじめはどんなことがあってもいけない」強い肯定回答:小89.0%、中81.1%(R2県学調) ※R2年度全国学調未実施 3.非行傾向の児童生徒に対し、学びの場を提供する児童生徒等自立支援教室の継続が必要。	1.集団づくりに関する取組を行い、望ましい人間関係の構築や安心できる居場所づくりにつなげている:レベル3以上(4件法:チーム学校チェックシート) 2.「いじめはどんなことがあってもいけない」強い肯定回答:小中95%以上(全国学調)	<ul style="list-style-type: none"> <li>非行傾向のある児童生徒に対し、学校生活への復帰を支援する児童生徒等自立支援教室を開催。</li> <li>関係機関が登校支援委員会に参加し、学校生活への復帰を支援。</li> <li>香美市いじめ問題対策連絡協議会の実施(年2回)</li> </ul>	【評価 B】 1.本年度の自立支援教室利用者は12月末現在いない。 2.関係機関が登校支援委員会に参加し、学校生活への復帰を支援。(月1回) 3.香美市いじめ問題対策連絡協議会の実施(年2回:紙面報告)	【評価 B】 1.「いじめはどんなことがあってもいけない」強い肯定回答(R3全国学調):小97.7%、(全国96.8%)中100%(全国95.9%) 2.③問題行動等による進路未決定者数は0名。	3	3						生徒指導上の諸課題は、発見や対応が遅れることがないように、未然防止や早期対応の取組がなされる。また、関係機関との連携によるきめ細かな支援を徹底する。安定的に児童生徒等自立支援教室を開催し、学校復帰や進路達成につながる。 1.集団づくりに関する取組を行い、望ましい人間関係の構築や安心できる居場所づくりにつなげている:レベル3以上(4件法) 2.「いじめはどんなことがあってもいけない」強い肯定回答95.0% 3.問題行動等による進路未決定者:現状以下



<視点1>

主体的に学び、社会を生き抜く力をもった人材を育てます

(2) 活力ある保育所・学校づくりの推進

【関係性】到達目標の達成状況 A:4.3 B:3.2 C:1

対策名	取組の概要	年度当初の現状 (課題等)	具体的な到達目標 (やるべき姿・望ましい状況)	具体的な取り組み (計画・実施)	行動実績	到達目標の達成状況	内部評価					令和5年度末達成目標 (後期到達目標)		
							内部評価	外部評価	R1	R2	R3		R4	R5
① 保育職員の研修の充実 (保)	・個人の資質の向上を図り、保育所全体としての保育の質の向上 ・保育職員総合研修で専門家による講義を実施。 ・部会で外部研修への参加 ・「高知県教育・保育の質向上ガイドライン」の導入、活用 ・ティーチャーズトレーニングの受講。 ・職員へのアンケートの実施	発達障害等のある子どもに対する専門的な指導や支援に加え、入所している子どもの保護者への支援も求められている。職位や職務に応じた研修の他、専門的な知識や技能を修得する必要がある。 1.保育職員総合研修で専門家による講義を実施する。R2年度25%(年1回) 2.16部会に分かれた保育・給食職員相互の研修【部会】4回中1回外部研修に参加する。R2年度6%(1/16部会) 3.ティーチャーズトレーニングの受講 R2年度83%(5/6園から参加)市内幼稚園から2/2園参加	1.保育職員総合研修で専門家による講義を実施する。100%(年4回) 2.16部会に分かれた保育・給食職員相互の研修【部会】4回中1回は外部研修(新型コロナウイルス感染症対策のため、DVDやWeb等の活用を含める。)に参加(又は実施)する。85%(14/16部会) 3.ティーチャーズトレーニングの受講 87%(公立5園、市内幼稚園2園参加)	・個人の資質の向上を図り、保育所全体としての保育の質の向上 ・保育職員総合研修で専門家による講義を実施 ・部会で外部研修(新型コロナウイルス感染症対策のため、DVDやWeb等の活用を含める。)に参加(又は実施) ・「高知県教育・保育の質向上ガイドライン」の導入、活用 ・ティーチャーズトレーニングの受講 ・職員へのアンケートの実施	【評価 B】 ①新型コロナウイルス感染症の影響により、保育職員総合研修で専門家を招いての講義が開催できない中、代替の取り組みとして、保育に関するDVDや救命救命のDVDを活用した研修を実施 ②部会で外部研修への参加、またはDVD活用による研修を実施 ③「高知県教育・保育の質向上ガイドライン」の導入、活用 ④ティーチャーズトレーニングは、新型コロナウイルス感染症の影響により、実施ができなかった。 ⑤今後の研修内容に生かせるよう、アンケートを実施した。	【評価 B】 1.新型コロナウイルス感染症の影響により、保育職員総合研修で専門家を招いての講義が開催できない中、代替の取り組みとして、保育に関するDVDや救命救命のDVDを活用した研修を実施。50%(年2回) 2.16部会に分かれた保育・給食職員相互の研修【部会】4回中1回外部研修に参加。81%(13/16部会) 3.ティーチャーズトレーニングの受講 0%(新型コロナウイルス感染症の影響により、実施ができなかった。)	3	3	3	3	3	3	3	個人が知識や技能を修得することで保育全体の質向上に繋がるよう研修への参加を推進し、子どもの健やかな成長を保障するとともに保護者の子育てを支援する。  1.保育職員総合研修で専門家による講義を実施する。100%(年4回) 2.4回の部会のうち1回は外部研修に参加する。85%以上(16/18部会) 3.ティーチャーズトレーニングの受講100%(各園1名6/6園) 個人が知識や技能を修得することで保育全体の質向上に繋がるよう研修への参加を推進し、子どもの健やかな成長を保障するとともに保護者の子育てを支援する。
② 保育所・学校組織としてのマネジメント力の強化 (学保)	<保育> ・園長研修及び主任保育士研修によるマネジメント研修の受講(対象職員全員) ・「県教育・保育の質向上ガイドライン」を使った園内研修の実施。(年1回以上) <小中> ・小中学校での学校経営計画の実施(PDCAサイクルで組織マネジメントの推進) ・定例の園長会や校長会の実施:毎月 ・自主小中学校長会の実施(研修):毎月 ・小中教頭会の実施:各月 テーマ(特別支援教育、学力問題、教育課程、情報教育、業務改善等) ・学校事務室(共同実施)の体制整備	保育所保育指針や学習指導要領が改訂され、教育を取り巻く状況はめまぐるしく変化するなかで、管理職等を中心とした、高いマネジメント力が必要である。 1.教育センターが実施する園長及び主任保育士研修受講者 12/21人(57%) 2.保育の「県教育・保育の質向上ガイドライン」を使った園内研修の実施 6/6園(100%) 3.小中学校の学校経営計画(ABC)でCが3% 4.小中学校のチーム学校を構築するチェックシート(教育課程、授業と学習状況、生徒指導)の内部評価:平均2.8(幅2.17~3.5・4件法)	1.教育センターが実施する園長及び主任保育士研修受講者 21/21 2.保育の「県教育・保育の質向上ガイドライン」を使った園内研修の実施 6/6園(100%) 3.小中学校の学校経営計画(ABC)でCが0% <小中> ・小中学校での学校経営計画の実施(組織的な取組・メンター、タテ持ち、教科間連携) ・定例の園長会や校長会の実施:毎月 ・自主小中学校長会の実施(研修):毎月 ・小中教頭会の実施:各月 テーマ(特別支援教育、学力問題、教育課程、業務改善等) ・学校事務室・共同実施運営協議会の開催、体制整備	<保育> ・園長研修及び主任保育士研修によるマネジメント研修の受講(対象職員全員) ・「県教育・保育の質向上ガイドライン」を使った園内研修の実施。(年1回以上) <小中> ・小中学校での学校経営計画の実施(組織的な取組・メンター、タテ持ち、教科間連携) ・定例の園長会や校長会の実施:毎月 ・自主小中学校長会の実施(研修):毎月 ・小中教頭会の実施:各月 テーマ(特別支援教育、学力問題、教育課程、業務改善等) ・学校事務室・共同実施運営協議会の開催、体制整備	【評価 B】 <保育> ①園長研修及び主任保育士研修によるマネジメント研修の受講(対象職員11/16人 69%) ②「県教育・保育の質向上ガイドライン」を使った園内研修の実施。(年1回以上) <小中> ・小中学校での学校経営計画の実施(組織的な取組・メンター、タテ持ち、教科間連携) ・定例の園長会や校長会の実施:毎月 ・自主小中学校長会の実施(研修):毎月 ・小中教頭会の実施:各月 テーマ(特別支援教育、学力問題、教育課程、業務改善等) ・学校事務室・共同実施運営協議会の開催、体制整備	【評価 B】 <保育> 1.教育センターが実施する園長及び主任保育士研修受講者(受講中及び受講済11/16人 69%) 2.保育の「県教育・保育の質向上ガイドライン」を使った園内研修の実施(6/6園活用 100%) <小中> 3.小中学校の学校経営計画の実施(ABC)2月末 4.小中学校のチーム学校を構築するチェックシート(教育課程、授業と学習状況、生徒指導)の内部評価:平均2.8(幅2.5~3.0・4件法)	3	3	3	3	3	3	保育所や学校が、PDCAを回しながら、高いマネジメント力を備え、時代に順応した経営ができている。 1.教育センターが実施する園長研修及び主任保育士研修受講者 100% 2.「県教育・保育の質向上ガイドライン」を使った園内研修の実施 6園・100% 3.学校経営計画(ABC)で100% 4.チーム学校を構築するチェックシート(教育課程、授業と学習状況、生徒指導)の内部評価:平均2.5(最低評価2.0、4件法)	
③ 小中の教職員に対する研修の充実 (学校)	A.全体研修会(市主催) *アイ= 悉皆研修 ・保小中管理職研修会 ・教職員研修会(4月・8月) ※8月は保小中合同研修会とする。 ・教育研究会(年5回) ・教育研究所 研究発表会(2月) イ.担当者研修会(市主催) ・研究主任会 ・キャリア担当者会 ・外国語推進委員会 ・特別支援教育コーディネーター研修会 ウ.県主催研修会 ・県学力向上研究主任会 ・教育課程研修会 ・管理職研修 ・年次研修	香美市教職員総会の実施により、教育の方向性や課題を共有するとともに各種研修会を通して、研修の充実を図っている。 本年度は、探究を軸とした小中一貫教育の実現に向けて一貫教育研究会(香美市学びをつなぐ学校づくり研究会)を実施し、9年間の系統性ある学びと指導の在り方について、研究を推進する。 1.教職員研修会のアンケート結果(R1.8)「実践に生かせる内容であった」99.6% 2.「R2高知県学力学習状況調査」(全国平均との差) 小4:国+1.4P 算+5.9P 小5:国+3.6P 算+9.5P 中1:国-2.1P 数-4.3P 中2:国+0.6p 数+5.3P 3.「R2高知県質問紙調査」 「学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているか。」強い肯定:小35.4% 中44.9%	1.教職員研修会のアンケート結果「実践に生かせる内容であった」現状を維持 2.「R3全国学調」(全国平均との差) 国、算・数→小中とも+3p以上 3.「R3高知県学力学習状況調査」(全国平均との差) 小 +5.0P以上 中±0 4.「R3高知県質問紙調査」 「学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているか。」強い肯定:小37%以上 中45%以上 ウ.県主催研修会 ・県学力向上連絡協議会 ・教育課程研修会 ・管理職研修 ・年次研修 ・授業づくり講座 ・ICT研修	A.全体研修会(市主催) *アイ= 悉皆研修 ・教職員研修会(4月・8月) ・学びをつなぐ学校づくり研究会(年3回) ・教育研究所 研究発表会(2月) イ.担当者等研修会(市主催) ・教頭会 ・研究主任会 ・道徳教育推進地区協議会 ・外国語推進委員会 ・特別支援教育コーディネーター研修会 ・ICT研修 ウ.県主催研修会 ・県学力向上連絡協議会 ・教育課程研修会 ・管理職研修 ・年次研修 ・授業づくり講座 ・ICT研修	【評価 B】 *コロナ感染拡大防止のため、次のように変更した。 1.全体研修会(市主催) ・教職員研修会(4月・8月リモートを活用し実施) ・一貫教育研究会は中学校区ごとに実施。(④に詳細記載) ・教育研究所研究発表会→リモートに切り替え実施予定(2月19日) 2.担当者研修会(市主催) ・教頭会(2学期以降開催) ・研究主任会(リモートにより1月25日予定) ・道徳教育推進地区協議会(年間3回実施) ・外国語推進委員会(2月25日予定) ・特別支援教育コーディネーター研修会(年間4回実施) ・ICT研修(年間2回実施) 3.県主催研修会 *一部オンデマンド研修等に変更 ・県学力向上研究主任会 ・管理職研修 ・年次研修 ※実施回数は各研修により異なる。	【評価 B】 中学校区ごとのグランドデザインの作成、及びそれに則した研修を行うことができた。鏡野中校区では、郷職・教頭がともにグランドデザインの作成に取り組み、共通理解を深めることができた。 1.教職員研修会アンケートの実施なし(リモートかつ内容の精選を図ったため、アンケートを実施しなかった) 2.R3全国学力・学習状況調査(小6)国+3.3p 算-0.2p (中3)国-0.6p 数-1.2p 3. R3県学力学習定着状況調査(国との平均との差) 2月中旬公表予定 4. R3全国学力・学習状況調査(意識調査)※R2年度は全国調査が中止になったため未達成目標を左記のようにしていたが、本年度は全国調査による達成状況を示す。 強い肯定:小45.5% 中36% 【備考】埼玉学力・学習状況の結果について個人の伸びを見ていくことを目的としたものであるため、R4本調査を実施後に検証する。	2	3	3	3	3	3	教職員研修会を通して、香美市の教育の方向性等について周知するとともに、各学校において、研修内容を具体的実践に生かす研究体制ができている。 1.「実践に生かせる内容であった」100% 2.小中学校ともに(国、算・数 +5P以上 3.「学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているか。」強い肯定:小40.0% 中45%	

<視点1>

主体的に学び、社会を生き抜く力をもった人材を育てます

(2) 活力ある保育所・学校づくりの推進

【関係性】到達目標の達成状況 A:4.3 B:3.2 C:1

対策名	取組の概要	年度当初の現状 (課題等)	具体的な到達目標 (有るべき姿・望ましい状況)	具体的な取り組み (計画・実施)	行動実績	到達目標の達成状況	内部評価					令和5年度末達成目標 (後期到達目標)			
							内部評価	外部評価	R1	R2	R3		R4	R5	
④ 保小連携教育の 推進  (学保)	・年間を通した互恵性のある保育園・幼稚園と小学校との交流活動の充実 ・5歳児後半の年間計画の作成 ・幼児教育を取り入れたスタートカリキュラムの実施 ・各小学校区での系統的な連携教育の推進	令和2年度は、新型コロナウイルスの影響により小学校教員による保育体験が例年通り実施できない学校が多かった。アプローチャリキュラム・スタートカリキュラムの作成・実施については課題が残る。 1.小学1年生の「学校に行きたくないことがありますか」否定的回答 36.6%(R2年度 11月 Q-Uアンケート2回目) 2.小学校教員による保育体験3校(聞き取り)※新型コロナの影響で実施できなかった学校4校 3.小学校の保育園・幼稚園との交流活動10校(聞き取り) 4.小学校を見据えた保育園の5歳児後半の年間計画完成 6園中5園(R2年度保幼小連携・接続の実施状況アンケート県調査)	1.各学校で作成した「スタートカリキュラム」実施100% 2.小学1年生の「学校に行きたくないようなことがありますか」否定的回答 25%以下(Q-Uアンケート) 3.小学校教員による保育体験実施7校(聞き取り) 4.小学校の保育園・幼稚園との交流活動10校(聞き取り) 5.小学校を見据えた保育園の5歳児後半の年間計画 6園中6園(R3保幼小連携・接続の実施状況アンケート県調査)	・幼児教育を取り入れたスタートカリキュラムの実施 ・小学校教員による保育体験の実施 ・年間を通した互恵性のある保育園・幼稚園と小学校との交流活動の充実 ・保幼小連携だよりの発行(年2回)	【評価 B】 1.幼児教育を取り入れたスタートカリキュラムの実施(7/7校) 3.小学校教員による保育体験実施(6/7校) 4.年間を通した互恵性のある保育園・幼稚園と小学校との交流活動の実施(7/7校) 5.小学校を見据えた保育園の5歳児後半の年間計画 6園中6園	【評価 B】 1.各学校で作成した「スタートカリキュラム」実施(100%) 2.小学1年生の「学校に行きたくないようなことがありますか」(Q-Uアンケート結果 否定的回答) 22.8% 2.小学校教員による保育体験実施(85%) 3.小学校の保育園・幼稚園との交流活動の実施(100%) 4.小学校を見据えた保育園の5歳児後半の年間計画の作成(100%)	3	3	3	3	3	3	3	<p>①互恵性のある交流活動</p> <p>②5歳児後半の年間計画の作成</p> <p>③スタートカリキュラムの実施</p> <p>④各小学校区での系統的な連携教育の推進</p>	<p>全園が5歳児後半の年間計画作成や全小学校で、幼児期を取り入れたスタートカリキュラムを実施することにより、滑らかな小学校への移行ができる。</p> <p>1.小学1年生の「学校に行きたくないようなことがありますか」否定的回答 15%以下 2.小学校教員による保育体験7校 3.小学校の保育園・幼稚園との交流活動7校 4.小学校教育を見据えた5歳児後半の年間計画の作成(全保育園・幼稚園)</p>
⑤ 小小連携 ・小中一貫教育 の推進  (学校)	・コミュニティ・スクールを核とした小小連携・小中一貫教育を推進 ・香北中学校区、大柘中学校区において、「育てたい子ども像」に基づいた校種連携、交流教育等の具体的実践を推進 ・鏡野中学校区では、5小学校の連携を推進し、中学校へのスムーズな接続 ・連携型小中一貫教育をめざす	年度末、支援の必要な幼児や児童を中心とした引き継ぎ会を実施している。 互いの理解が進むとともに、校種間での接続も進んでいる。新規不登校は特定の学年で多い状態ではないが、複数の要因による新規不登校が発生している。 1.引き継ぎ会を実施している学校 100% 2.新規不登校 新中1年生(令和2年度:5名) 3.近隣の小・中と、教育課程に関する共通の取組を行った(H31全国学調)(強い肯定) 小学校 14.3%(全国22.8%) 中学校 0%(全国26.1%)	1.引き継ぎ会を実施している学校100% 2.新規不登校中学1年生を令和2年度より減少させる(5名未満) 3.※全中学校区において小中一貫教育を充実させることで、「育てたい子供像」と「つけるべき資質・能力」が明確になる。 ＜鏡野中学校区＞ グランドデザインを基にした、小中の具体的研究がスタートする。 ＜香北中学校区＞ IB教育を軸とした一貫教育の研究推進を図る。 ＜大柘中学校区＞ 県の指定事業を活用し、生活・総合的な学習の時間を軸とした、保小中10年間の一貫教育の研究推進を図る。	1.引き継ぎした児童の見届け訪問を行う。 2.学期末にSC・SSW合同連絡会を実施し、アセスメントによる現状把握と検討を行う。 3.※全中学校区において、各中学校区の実態に基づいたグランドデザインが完成する。 ※各中学校区で「学びをつなぐ学校づくり研究会」を実施する。 ＜鏡野中学校＞ グランドデザインを基に、学力と特別活動の2つを軸とした具体的研究が始まる。 ＜香北中学校区＞ ・IBに関する小中合同研修会を実施する。 ・小中ともに授業参観を行い、互いの授業を見合う機会を設ける。 ＜大柘中学校＞ ・「生活・総合的な学習の時間」の学びの系統性、教科間の繋がりを意識した授業実践を行う。 ・小中学校合同の公開授業研修会等を定期的に行う。	【評価 B】 1.引き継ぎ児童の見届け訪問実施(保育コーディネータ・研究所) 2.SC・SSW合同連絡会:2回実施。 3.全中学校区においてグランドデザインが完成した。(鏡野中学校区) グランドデザインに基づき、小中一貫の重要性を各校において教職員に周知した。 ＜香北中学校区＞ ・小中合同管理職及びコーディネーター会を実施した。(月1回) ・グランドデザインに基づく、「学びをつなぐ学校づくり研究会」を実施した(6月8日、8月31日、1月19日) ＜大柘中学校＞ ・県の指定事業を活用し、小中合同の研究組織を確立し、生活・総合的な学習の時間を初めとする教科等の研究を充実させた。 ・小中学校合同の(公開)授業研究会を実施した。(生活・総合的な学習の時間2回、外国語1回、国語1回)	【評価 B】 1.引き継ぎ会の実施率100% 2.新規不登校中学1年生12月現在20日以上が7名 3.各中学校区 近隣の小・中と、教育課程に関する共通の取組を行った(R3全国学調)(強い肯定) 小学校 14.3%(全国17.0%) 中学校 0%(全国23.5%) ＜鏡野中学校区＞ グランドデザインが完成し、各学校に周知ができた。 ＜香北中学校区＞ 「育てたい子供像」と「つけるべき資質・能力」が明確になり、学校長及びコーディネーター等、一貫教育の核となる教員間の交流は充実した。 ＜大柘中学校区＞ 「育てたい子供像」と「つけるべき資質・能力」が明確になり、保小中10年間の繋がりを意識した取組を実践した。	3	3	3	3	3	3	<p>①鏡野中学校区 小小連携事業</p> <p>②香北中学校区 IB推進事業</p> <p>③大柘中学校 育ちの連携事業</p> <p>④小中一貫教育推進事業</p>	<p>各中学校区で「育てたい子ども像」に基づいた小小連携、小中連携が推進され、香北・大柘中学校区では、小中一貫教育への体制づくりが進む。鏡野中学校区では、山田小学校を軸とした小小連携が充実し、中学校への円滑な接続が行われる。</p> <p>1.引き継ぎ会を実施している学校 100% 2.新規長期欠席 新中1年生 5名 3.近隣の小・中と、教育課程に関する共通の取組を行った(強い肯定) 50%</p>	



<視点1>

主体的に学び、社会を生き抜く力をもった人材を育てます

(3) たくましく生きる人間力を培う教育の推進

【関係性】到達目標の達成状況 A:4.3 B:3.2 C:1

対策名	取組の概要	年度当初の現状 (課題等)	行動実績・到達目標の達成状況の内部評価			内部評価					令和5年度末達成目標 (後期到達目標)			
			具体的な到達目標 (有るべき姿・望ましい状況)	具体的な取り組み (計画・実施)	行動実績	到達目標の達成状況	内部評価	外部評価	R1	R2		R3	R4	R5
① 学力向上対策  (学校)	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学教授等を招聘した、公開授業研究会の実施</li> <li>学力に係る先進地視察実施</li> <li>研究主任会の実施</li> <li>標準学力調査による到達度把握</li> <li>学力向上支援員の配置</li> <li>高知工科大学生、山田高校生による学習ボランティア活動の推進</li> </ul>	中学校の学力は改善傾向にあり、小学校は全国平均以上の学力を維持している。一方で、低学力の児童生徒への個に応じた支援が必要であり、認知能力・非認知能力の両面から構造的に学力を検証する必要がある。  1.「R2全国学調」(全国平均との差)実施なし  2.「R2高知県学力学習状況調査」(全国平均との差) 小4:国+1.4P 算+5.9P 小5:国+3.6P 算+9.5P 中1:国-2.1P 数-4.3P 中2:国+0.6p 数+5.3P  3.「R2標準学力調査」(達成率平均) 小2～5:国72.6% 算72.0% 中1～2:国70.8% 数58.8%	1.R3全国学調(全国平均との差) 国、算・数→小+3p以上 中±0p以上  2. R3高知県学力学習状況調査(全国平均との差) 小 +5.0P以上 中±0  3.「R3標準学力調査」(達成率平均) 小2～5:国75%以上、算75%以上 中1～2:国75%以上、数60%以上 ・タブレットの活用(100%)	1.各学力調査による実態把握及び意識調査結果による構造的な分析の実施  2.研修会の充実 ・香美市教職員研修会の開催 ・教頭・研究主任合同研修会の実施(5月、2月) ・市内学校公開授業研究会の実施及び相互参加  3.個の課題に対応できる学力向上支援員の配置(学習ボランティアを含む) ・タブレットの活用による個別最適学習の実施 ・放課後子ども教室(県事業)の実施	【評価 B】 1.全国学力・学習状況調査(小6年、中3年5月)、標準学力調査(小1～3年5月、小2、3年12月)、県学力定着状況調査(小4、5年12月)、埼玉学力学習状況調査(小4～6年、中1～3年) ※今年度より、埼玉学力・学習状況調査を実施し、個々の学習状況及び非認知能力・学習方略について把握することとした。  2. 研修会の充実 ・香美市教職員研修会(4月9日、8月31日) ・教頭・研究主任合同研修会の実施(5月7日、1月27日) ・市内公開授業の実施 山田小(国)、舟入小(道)、大宮小(外)、鏡野中(理)、大橋小中(総)  3. 教育支援員20名、学力向上支援員3名を配置	【評価 B】 1. R3全国学力・学習状況調査(小6)国+3.3p 算-0.2p (中3)国-0.6p 数-1.2p 2. R3県学力学習定着状況調査(小4)国+5.2p 算-2.7p (小5)国+0.2p 算+0.9p 理-6.5p (中1)国-0.9p 数-4.9p 理-3.7p 英-7.5p (中2)国0p 社+3.9p 数-1.4p 理+2.5p 英-2.4p 3. R3標準学力調査(達成率平均)※小5 中1.2は県学力調査(小2)国81.7% 算62.2% (小3)国69.6% 算63.7% (小4)国54.5% 算59.6% (小5)国69.6% 算64.9% (中1)国66.2% 数46.9% (中2)国69.9% 数55.5% 4. タブレットの活用100% 【備考】埼玉学力・学習状況の結果について個人の伸びを見ていくことを目的としたものであるため、R4本調査を実施後に検証する。	3	3	①授業改善推進事業	②学力向上支援事業	③個に応じた学力支援事業			小中ともに全国平均以上の学力を維持しながら、低学力の児童生徒への手立てが充実し、学力が保障される。  1.小中学校ともに 国、算・数+5P以上 2.小中学校ともに +5P 3.小2～5:国・算ともに80% 中1～2:国・算ともに70%
② 探究的な授業づくりの推進  (学校)	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学教授等を招聘した研修会の実施</li> <li>探究的な授業づくりに係る先進地視察実施</li> <li>総合的な学習の時間を核としたカリキュラムマネジメント</li> <li>学校図書館及びICTを活用した授業の充実</li> <li>学校図書支援員の配置</li> <li>学校図書館コーディネーターの配置</li> <li>ICT支援員の配置</li> <li>学校図書館システムの活用充実</li> </ul>	全体として中学校の学力は改善傾向にあり、小学校は現状を維持しているが、新学習指導要領の趣旨に基づいた授業改善が不十分である。 1.「H31全国学調」(全国平均差)小:国+6.2P、算+6.2P 中:国-2.8P、数-0.8P  2.「R2高知県質問紙調査」(1)「昨年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。」 強い肯定:小・中学校とも35%以上を維持  (2)「学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。」 強い肯定:小・中学校ともに40%以上	1.「R3全国学調」(全国平均との差) 国語、算・数→小中とも+3P以上  2.「R3高知県質問紙調査」(1)「昨年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。」 強い肯定:小・中学校とも35%以上を維持  (2)「学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。」 強い肯定:小・中学校ともに40%以上	1.研修会の充実 ・香美市教職員研修会の実施 ・探究的な授業づくりに係る先進地視察実施 ・研究主任会の実施 ・教頭・研究主任合同研修会の実施(年2回) ・市内学校の公開授業研究会の実施及び相互参加の実施  2.支援員の配置 ・ICT支援員の配置 ・学校図書支援員の配置  3.学校図書館及びICTを活用した授業の充実(支援員との連携)	【評価 B】 1.研修会の充実 ・香美市教職員研修会(4月9日、8月31日) ・教頭・研究主任合同研修会の実施(5月7日、1月27日) ・市内公開授業の実施 山田小(国)、舟入小(道)、大宮小(外)、鏡野中(理)、大橋小中(総) 2.支援員の配置 ・ICT支援員の配置(2名) ・図書支援員の配置(6名) 3.学校図書館及びICTを活用した授業の充実 ・「言語能力・情報活用能力」公開授業研究会の実施(山田小11.25) ・大橋中学校をモデル校に指定し、具体的取組(活用事例、情報モラル、保護者周知等)について、市内に広く発信した。 ・教育研究所研究員とICT支援員が連携し、各学校の取組みについて、	【評価 B】 1. R3全国学力・学習状況調査(小6)国+3.3p 算-0.2p (中3)国-0.6p 数-1.2p  2. R3全国学力・学習状況調査(意識調査) ※R2年度は全国調査が中止になったため未達成目標を左記のようにしていたが、本年度は全国調査による達成状況を示す。 (1) 強い肯定:小37.5% 中40% (2) " :小45.5% 中36%	3	3	①授業改善推進事業	②探究的な授業づくり充実事業	③学校図書館活用充実支援事業	④IB認定校としての成果発信(大宮小学校)	新学習指導要領の趣旨に基づいた授業が展開され、新学力観に対応した学力が保障されている。  1.小中学校ともに国語、算・数全国との差+5P以上 2.「前年度のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。」強い肯定:小・中学校ともに35.0%以上 3.「学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。」強い肯定:小40% 中45%	
③ 豊かな心の育成(道徳・人権)  (学生)	<ul style="list-style-type: none"> <li>香美市道徳教育推進地区協議会の実施</li> <li>香美市いじめ防止サミットの実施</li> <li>いじめと虐待に関する研究会や学校生活アンケート(いじめアンケート)の実施</li> <li>道徳参観日や人権参観日の実施</li> </ul>	家庭・地域と連携した道徳教育の推進を図るため、道徳教育推進リーダーや道徳教育推進教師を中心に取組が進むよう、香美市道徳教育推進地区協議会を機能させ、連携している。  1.「家の人と道徳の話をして、家庭で取り組む高知の道徳を読んだりしている」:小中59.2%(県道徳意識調査) 2.「自分にはよいところがあると思う」肯定的回答:小81.9%、中79.2%(県道徳意識調査) 3.パソコンや携帯電話でイヤなことをされた:小3%、中3.2%(子どもの育ち長期調査)	家庭・地域とつながった道徳教育の推進に取り組む  1.「家の人と道徳の話をして、家庭で取り組む 高知の道徳を読んだりしている」:小中60%以上(県道徳意識調査) 2.「自分にはよいところがあると思う」肯定的評価(県道徳調査)小中ともに前年度値以上 3.パソコンや携帯電話でイヤなことをされた:小中ともに3.0%以内(子どもの育ち長期調査)	<ul style="list-style-type: none"> <li>香美市道徳教育推進地区協議会の計画的実施</li> <li>いじめと虐待に関する研究会や学校生活アンケート(いじめアンケート)実施</li> <li>全小中学校で道徳参観日・人権参観日実施</li> <li>情報リテラシー・情報モラル教育の計画的実施</li> </ul>	【評価 B】 ※コロナ感染拡大を受けて、回数を減らしたり、DVD教材を活用したり、制限を加えた開催で参加方法の工夫をして実施 ①香美市道徳教育推進地区協議会(3回)全小中学校で道徳参観日・人権参観日を実施 ②いじめと虐待に関する研究会や学校生活アンケート(いじめアンケート)の実施(100%)	【評価 B】 1.「家の人と道徳の話をして、家庭で取り組む 高知の道徳を読んだりしている」:小中 59.2%(県道徳意識調査) 2.「自分にはよいところがあると思いますか」 肯定的評価(R3全国学調)小6生79.5%(全国平均76.9%)、中3生84.0%(全国平均76.2%) 3.パソコンや携帯電話でイヤなことをされた小3%・中3.2%(子どもの育ち長期調査)	3	3	①わがまちの道徳教育充実	②香美市いじめ防止サミット準備	③香美市いじめ防止サミットII	学校・家庭・地域が連携して、道徳・人権教育を推進する。児童生徒の人権意識の向上を図るとともに、一人一人の人権が尊重される学校・学級づくりを目指す。  1.「家の人と道徳の話をして、家庭で取り組む 高知の道徳を読んだりしている」:小中 60% 2.「自分にはよいところがあると思う」肯定的回答 小中全国比+4.0P 3.パソコンや携帯電話でイヤなことをされた:1.9%		

<視点1>

主体的に学び、社会を生き抜く力をもった人材を育てます

(3) たくましく生きる人間力を培う教育の推進

【関係性】到達目標の達成状況 A:4.3 B:3.2 C:1

		行動実績・到達目標の達成状況の内部評価				内部評価								
		A:目標(予定)を達成できた、B:目標(予定)を一部達成できなかった、C:目標(予定)をほとんど達成できなかった				4:想定以上の成果、3:概ね想定どおりの成果、2:成果が得られたが改善が必要、1:見直しが必要								
対策名	取組の概要	年度当初の現状 (課題等)	具体的な到達目標 (有るべき姿・望ましい状況)	具体的な取り組み (計画・実施)	行動実績	到達目標の達成状況	内部評価	外部評価	R1	R2	R3	R4	R5	令和5年度末達成目標 (後期到達目標)
④  (学校)	体力向上・ 健康な生活の推進	健康教育教材「よりよい生活習慣のために」を全小中学校で活用、基本的な生活習慣の確立(「早寝・早起き・朝ごはん」の啓発・運動する楽しさと運動量を確保した教科体育の充実と体育科の授業と子どもの遊びの連携を目指した授業改善・体力・運動能力、生活実態等調査等を香美市全児童生徒が実施し、その結果を各校で分析し、対策を執行・児童生徒のニーズに応じた運動に親しむための環境整備と運動への啓発活動(生涯スポーツとの連携)	健康な生活を送るための運動習慣の確立や、基本的な生活習慣の確立が十分ではない。 1.毎日朝ごはんを食べる児童生徒の割合 小5: 89.5% 中2: 78.3% 2.起床時刻6時30分 小5: 56% 中2: 58% 3.就寝時刻 小5(22時)66.5% 中2(23時)65.5% ＜市食育推進計画(小5・中2調査)＞ 4.一週間の運動・スポーツ実施時間(420分以上) 小5男51.5%(国51.5%) 小5女31.9%(国30.1%) 中2男72.4%(国83.5%) 中2女50.0%(国61.7%) ＜全国体力調査R元年度＞ ※R2年度は未実施	1.健康教育教材「よりよい生活習慣のために」活用率100%。 2.香美市食育アンケートの実施。 3.小4・中1ターゲットの取組。(1年後の自分プロジェクト) 4.体力・運動能力、生活実態等調査等結果を各校で分析し、授業改善を図る。 5.オリンピック・パラリンピック競技等、外部講師を招聘しての授業を実施。(生涯スポーツとの連携)	【評価 B】 ①健康教育教材「よりよい生活習慣のために」活用率100% ②香美市食育アンケート実施。 ③体力・運動能力、生活実態等調査等を香美市全児童生徒が実施・分析・検証。 ④オリンピック・パラリンピック競技の授業実施。(講師:県教委)(5校)	【評価 B】 健康な生活を送るための運動習慣の確立や、基本的な生活習慣の確立に取り組んだ。 1.毎日朝ごはんを食べる児童生徒の割合 小5 89.8% 中2 76.3% 2.起床時刻6時30分 小5 55.8% 中2 60.3% 3.就寝時刻 小5(22時)60.5% 中2(23時)54.5% ＜市食育推進計画(小5・中2調査)＞ 4.一週間の運動・スポーツ実施時間(420分以上) 小5男37.8%(国48.0%) 小5女15.8%(国28.3%) 中2男63.8%(国79.1%) 中2女52.8%(国58.4%) ＜R3全国体力調査＞	2	2	①「早寝・早起き・朝ごはん」を目指した生活習慣の確立 ②運動する楽しさと運動量を兼ね備えた体育科の授業改善(指定校) ③体力・運動能力、生活実態等調査からの各学校での取組 ④運動・スポーツに親しむための環境整備と啓発活動	令和5年度末達成目標(後期到達目標) 健康な生活を送るための基本的な生活習慣が確立され、運動習慣がついている。 1.毎日朝食を食べる(95%以上) 2.起床時刻6時30分 小5 70%以上 中2 60%以上 3.就寝時刻 小5(22時)60%以上 中2(23時)60%以上 4.一週間の運動・スポーツ実施時間(体育の授業以外)420分以上 小5男56%、小5女33%、中2男86%、中2女62%				
⑤  (学生)	キャリア教育の推進	平成25年度から3年間キャリア教育の指定を受け、キャリア教育の視点を意識した取組を実施してきた。その後もキッズチャレンジデー・キャリア教育を実施している。(R2年度は新型コロナの影響でキャリアチャレンジデーは未実施) 1.「自分の住んでいる地域が好きである」肯定的評価 小6 87.9% 中3 89.0%(R2年度子どもの子育て長期調査) 2.「自分にはよいところがあると思いますか」肯定回答 小6 82.0% 中3 80.0%(高知県児童生徒学力状況調査児童生徒質問紙) 3.「難しいことでも失敗を恐れないで挑戦している」小6 82.6% 中3 75.2%(H31年度全国学調)	1.「自分の住んでいる地域が好きである」肯定的評価 小6 92% 中3 92%以上(子どもの子育て長期調査) 2.「自分にはよいところがあると思いますか」肯定的評価 小中ともに全校平均値以上(全国学調) (参考)「自分にはよいところがあると思いますか」肯定回答 小6 82.0% 中3 80.0%(高知県児童生徒学力状況調査児童生徒質問紙) 3.「難しいことでも失敗を恐れないで挑戦している」 小6 83.5% 中3 77%以上(全国学調)	・年間計画に沿ったキャリア教育の実施 ・キャリア教育の視点を意識したキッズチャレンジデーとキャリアチャレンジデーの実施 ・総合的な学習の時間を核とした体験活動の推進 ・地域の教育資源を活用(中3:ふるさとアンケート)	【評価 B】 ①キャリアチャレンジデーは9月にオンライン形式で実施。キッズチャレンジデーは、6校実施。1校はコロナの影響で代替日程の調整がつかず、中止。 ②コロナ禍の中、規模を縮小もしくは中止せざる負えない状況。 ③地域の教育資源を活用アンケートは、小3生は9月に実施、中3生は2月に実施。	【評価 A】 1.「自分の住んでいる地域が好きである」(子どもの子育て長期調査)小6 82.5% 中3 87.0% 2.「自分にはよいところがあると思いますか」肯定的評価(R3全国学調)小6 79.5%(全国平均76.9%)、中3 84.0%(全国平均76.2%) 3.「難しいことでも失敗を恐れないで挑戦している」(R3全国学調)小6 73.3%(全国平均70.9%)、中3 68.0%(全国平均65.9%)	3	3	①キャリアチャレンジデー・キッズチャレンジデーの実施 ②地域の方々や協働したキャリア教育 ③探究的な授業づくり充実事業 ④地域の教育資源を活用した系統的なふるさとプログラムの充実	総合的な学習の時間を充実させることで、地域の人やものに出会い、よさを感じることができる。また、その学習の中で、社会性の育成も育むことができる。 1.「自分の住んでいる地域が好きである」(香美市教育・子育て長期調査) 小6 92% 中3 78% 2.「自分にはよいところがあると思いますか」 小6・中3 87%以上 3.「難しいことでも失敗を恐れないで挑戦している」小6 85% 中3 72%				



<視点2>

市民が協働し、ともに支え合い、高め合う地域社会を築きます

【関係性】到達目標の達成状況 A:4.3 B:3.2 C:1

(1) 香美市のたからを活かしたふるさと教育の推進

行動実績・到達目標の達成状況の内部評価

内部評価

4: 想定以上の成果、3: 概ね想定どおりの成果、2: 成果が得られたが改善が必要、1: 見直しが必要

A: 目標(予定)を達成できた、B: 目標(予定)を一部達成できなかった、C: 目標(予定)をほとんど達成できなかった

対策名	取組の概要	年度当初の現状(課題等)	具体的な到達目標(有るべき姿・望ましい状況)	具体的な取り組み(計画・実施)	行動実績	到達目標の達成状況	内部評価					令和5年度末達成目標(後期到達目標)
							内部評価	外部評価	R1	R2	R3	
① 香美市ふるさとプログラムの充実 (学校)	・総合的な学習の時間を核とした体験活動の推進 ・香美市の8割を占める山林についての学習の推進(山の学習事業) ・地域の教育資源を活用した系統的なふるさとプログラムの充実	各校が地域の教育資源(人・もの・こと)を活用した活動を実施している。しかし、今後も充実した活動が必要である。 1.「自分の住んでいる地域が好きである」肯定的評価 小6 87.9% 中3 89.0%(R2年度子ども子育て長期調査) 2.「17の教育資源(育ちの指標リーフレットより)の中で、80%以上行ったことがある」 中3 8施設(R2年度市ふるさとアンケート)	1.「自分の住んでいる地域が好きである」肯定的評価 小6 92% 中3 91%以上(子どもの子育て長期調査) 2.「17の教育資源(育ちの指標リーフレットより)の中で、80%以上行ったことがある」 中3 9施設以上(市ふるさとアンケート)	・総合的な学習の時間を核とした体験活動の推進 ・香美市の8割を占める山林についての学習の推進(山の学習事業:全小中学校) ・地域の教育資源を活用した系統的なふるさとプログラムの充実(全小学校)	【評価 B】 1.総合的な学習の時間を核とした体験活動の実施(100%) 2.香美市の8割を占める山林についての学習の実施(山の学習事業:全小中学校実施100%) 3.地域の教育資源を活用した系統的なふるさとプログラムの実施(コロナのため縮小して実施)	【評価 B】 1.「自分の住んでいる地域が好きである」(子ども子育て長期調査)小6 82.5% 中3 87.0% 2.「17の教育資源(育ちの指標リーフレットより)の中で、80%以上行ったことがある」(ふるさとアンケート)中3:4施設	3	2	①総合的な学習の時間を核とした体験活動の推進	②山の学習事業	③地域の教育資源を活用した系統的なふるさとプログラムの充実	総合的な学習の時間を充実させることで、地域の人やものに出会い、ふるさとのよさを感じることができる。 1.「自分の住んでいる地域が好きである」小6 92% 中3 78% 2.「17の教育資源(育ちの指標リーフレットより)の中で、80%以上行ったことがある」 中3 10施設以上
② 食育推進・健康教育の充実 (学保)	・栄養教諭による食に関する指導の強化と充実 ・栄養教諭のスキルアップ支援 ・欠食がみられる児童生徒への支援。(自分で食事をつくることのできる力を育てる) ・フッ化物洗口のサービスの提供 ・食育ノート、食育ハンドブックを活用した授業の実施 ・ヘルスメイト、JA高知県女性部土佐香美地区や地域学校協働本部と連携した調理実習の実施 ・家庭と連携した生活リズムの確立	家庭で栄養バランスの取れた十分な食事を摂ることができていない児童生徒がいる等、子どもの食生活をめぐる問題や口の健康(むし歯や歯肉炎の状況等)に家庭差がある 1.朝食を毎日食べている 小5: 85.2% 中2: 77.1%(市食育アンケート) 2.12歳(中1)永久歯一人平均むし歯数 1.14本(H28学校歯科保健調査) 3歳児一人平均むし歯数0.35本 3.生活リズム名人認定小学生35.48%(生活リズム名人の取組)	健康な生活を送るために必要な食事や心身の形成のために、生活リズムや食事の重要性に気づき、実行力をもった児童生徒の育成。 1.朝食を毎日食べている 1歳6か月児・3歳児 100% 小5: 95% 中2: 95%以上(市食育アンケート) 2.12歳(中1)永久歯一人平均むし歯数0.5本以下(学校歯科保健調査) 3歳児一人平均むし歯数0.4本以下 3.生活リズム名人認定小学生45%以上(生活リズム名人の取組)	・栄養教諭の計画的な食育の推進 ・地域学校協働本部の協力による朝食づくりの実施(食事推進支援事業の活用) ・フッ化物洗口のサービスの提供 ・食育ノート、食育ハンドブックを活用した授業の実施 ・ヘルスメイト、JA高知県女性部土佐香美地区と連携した調理実習の実施 ・家庭と連携した生活リズムの確立	【評価 B】 ・香美市食育庁内会にて栄養教諭より各校の進捗確認(2回) ・地域学校協働本部の協力による朝食づくりの実施(2小・1中学校) ・フッ化物洗口のサービスの提供(全小中学校) ・食育ノート、食育ハンドブックを活用した授業の実施(全小中学校) ・ヘルスメイト(全小中学校)、JA高知県女性部土佐香美地区(全中学校)と連携した調理実習の実施 ・生活リズム名人取組校(全小学校) ・すくすくリズム取組園(5園) ・栄養士による子育て講座や食育講座の実施	【評価 B】 1.朝食を毎日食べている 1歳6か月児96.2%(+0.9) 3歳児93.9%(+2.1) 小5 89.8%(+0.3) 中2 76.3%(+2.0)(市食育アンケート) 2.12歳(中1)永久歯一人平均むし歯数 0.7本(R2学校歯科保健調査) 3歳児一人平均むし歯数 0.35本 3.生活リズム名人認定小学生 34.5%	3	3	①食と健康プロジェクト	②家族でチャレンジ!リズム名人	③未来のわたし育成プロジェクト	香美市食育推進計画に沿って、取組を充実させ、児童生徒の食に関する関心を高め、将来の健康な生活に必要な、食と健康な生活への実践力が獲得される。 1.朝食を毎日食べている 小5 中2年 95.0%以上 2.12歳(中1)永久歯一人平均むし歯数 0.5本以下 3歳児一人平均むし歯数 0.4本以下 3.生活リズム名人認定小学生 60%
③ 文化財・文学の活用と推進 (生)	・文化財の公開活動を拡充するため、香美市内の小中学校で伝承教室を開催し、後世への伝承を行うとともに地域文化への関心を高める ・短歌大会等を開催し、地域住民と小中学校等の連携による地域密着型教育の推進	文化財の公開は、無形民俗文化財では、いざなぎ流舞神楽と太刀踊りがいずれも不定期に公開活動をしているが、昨今の状況下において公開の場がなく、練習する機会もない状況が続いている。 歌人・吉井勇の功績や知名度等が市民に浸透しきれていない。 1.いざなぎ:年1回公開 太刀踊り:公開なし 2.小中学校での伝承教室の開催(いざなぎ1回) 3.吉井勇記念館来場者数 745名(令和2年度実績)	1.いざなぎ流舞神楽:年1回公開 太刀踊り:年1回公開 2.吉井勇記念館来場者数 1,000名	・文化財の公開活動を拡充するため、香美市内の小中学校で伝承教室を開催し、後世への伝承を行うとともに地域文化への関心を高める。 ・短歌大会等を開催し、地域住民と小中学校等の連携による地域密着型教育の推進。	【評価 B】 ・小中学校での伝承教室の開催→未実施 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、保存会が練習を控えたため未実施 ○香北中学校 ○大橋小学校 ・短歌大会を3月に開催する。地域住民と小中学校等の連携による地域密着型教育の推進を図る。本年度は新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、表彰式及び記念講演会は開催しないが、例年通り、応募作品の選考後、全作品を掲載した作品集を作成する。	【評価 B】 1.いざなぎ流舞神楽:未実施 太刀踊り:未実施 2.吉井勇記念館来場者数 489名(R4.1.15時点)	2	2	①小中学校伝承教室	③短歌大会開催	②小中学校伝承教室の充実 ④地域とともにある短歌大会の開催	香美市のたからを学校教育と生涯学習、ひいては地域活性化に繋げる。香美市の子どもたちに地域への愛着と誇りを持ってもらう。 1.文化財の公開については地域の祭や生涯学習フォーラム等の場で公開する機会を作る。年5回 2.小中での伝承教室 4校以上 3.短歌等を通じ、文学や文化に興味を持ってもらい、安定したファン層の向上を図る。 来場者数 2,000人以上

<視点2>

市民が協働し、ともに支え合い、高め合う地域社会を築きます

【関係性】到達目標の達成状況 A:4.3 B:3.2 C:1

(2) 子育て支援と親支援の推進

対策名	取組の概要	年度当初の現状 (課題等)	具体的な到達目標 (有るべき姿・望ましい状況)	具体的な取り組み (計画・実施)	行動実績	到達目標の達成状況	内部評価					令和5年度末達成目標 (後期到達目標)		
							内部評価	外部評価	R1	R2	R3		R4	R5
① 家庭への専門的な支援 (保)	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援保育コーディネーターによるティーチャーズトレーニングの実施</li> <li>支援ファイルの作成</li> <li>保育所や保護者への支援、小学校や専門機関等との連携</li> <li>家庭支援推進保育士によって特別な配慮が必要な家庭に対する支援</li> </ul>	特別支援保育コーディネーターを配置し保育園の職員とともに、特別な支援を必要とする子どもや厳しい環境にある子どもの保育の質の向上を図るため、必要な人材を確保し支援する体制を整える必要がある。	特別支援保育コーディネーターを配置し保育園の職員とともに、特別な支援を必要とする子どもや厳しい環境にある子どもの保育の質の向上を図るため、必要な人材を確保し支援する体制を整える必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援保育コーディネーターによるティーチャーズトレーニングの実施</li> <li>支援ファイルの作成</li> <li>保育所や保護者への支援、小学校や専門機関等との連携</li> <li>家庭支援推進保育士加配による特別な配慮が必要な家庭に対する支援</li> </ul>	【評価 B】 ①特別支援保育コーディネーターによるティーチャーズトレーニングの実施は、新型コロナウイルス感染症の影響により、実施ができなかった。 ②支援ファイルの作成 ③保育所や保護者への支援、小学校や専門機関等との連携 ④家庭支援推進保育士加配による特別な配慮が必要な家庭に対する支援	【評価 B】 1.ティーチャーズトレーニングの実施 0% (新型コロナウイルス感染症の影響により、実施ができなかった。) 2.支援ファイルの作成 今年度必要者1名を作成100% 3.特別支援保育コーディネーターや園職員による家庭支援や関係機関との連携を行う。 (2/6園に加配)加配33%、 ・家庭訪問又は面談必要者なし(面談までは必要がない見守り家庭についての記録や声掛けは行っている。)	3	3						特別な支援を必要とする子どもや厳しい環境にある子どもの保育の質の向上を図ることができる 1.ティーチャーズトレーニングの実施(全6園参加) 100% 2.支援ファイルの作成(必要者全員) 100% 3.保育士を加配し家庭支援を行う。 (3/6園に加配)50% 家庭訪問又は面談100%実施
② 地域子育て支援の充実 (保)	<ul style="list-style-type: none"> <li>親子の交流の場の提供(子育てひろばの開催)</li> <li>子育てに関する相談・援助</li> <li>地域の子育て関連情報の提供</li> <li>子育てに関する講習会の開催(月1回)</li> <li>子育てサークル等の地域支援、地域とのつながりを支援・促進</li> <li>高校生の子育てサポート体験事業拡大</li> <li>ペアレントトレーニングの試行</li> <li>訪問支援</li> <li>香美市在住者の就学前児の子育てセンターでの保育</li> </ul>	地域のつながりが希薄化し、また少子化、核家族化が進む中で、子育てが「個育て」、「孤育て」になっており、身近に育児支援者がおらず、保護者が子育てに不安や育児力の弱さを抱えている場合があり、不安やニーズが大きい。 現在は、新型コロナウイルス感染症対策に努め、子育てひろばを開催している。子育て家庭の交流促進や育児相談、一時預かりの利用増加につなげていくため、子育てセンターが発行する「子育ておひさま通信」やホームページ等で、情報発信をしていく必要がある。	妊娠期からの切れ目ない相談・援助により、安心して出産・子育てができる。子育て家庭が交流することにより、親子同士の育ち合いがあり、育児力の向上、子どもの発達が促進される。保護者は希望する日に一時預かりを利用することができ、育児ストレスや育児負担を軽減できる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>親子の交流の場の提供(子育てひろばの開催)</li> <li>子育てに関する相談・援助</li> <li>地域の子育て関連情報の提供</li> <li>子育てに関する講習会の開催(月1回)</li> <li>子育てサークル等の地域支援、地域とのつながりを支援・促進</li> <li>高校生の子育てサポート体験事業拡大</li> <li>ペアレントトレーニングの実施</li> <li>訪問支援</li> <li>香美市在住者の就学前児の子育てセンターでの保育(一時預かり事業)</li> </ul> ※新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、事業および講座の実施を中止する場合あり。	【評価 B】 ①子育てセンターなかよし・びらふで、月～金の9時から14時に、子育てひろばを実施(8/20～9/19の期間は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため休止) ②両センターで、随時相談と月1回の育児相談会を実施 ③地域の子育て関連情報は掲示物やチラシの配布で提供 ④子育てに関する講習会等を両センターであわせて、月1回以上実施 ⑤香美市子育てサークル交流会の実施、子育てサークルとの情報交換会へ参加 ⑥山田高校の担当教員と体験事業拡大について検討したが、新型コロナウイルス感染症のリスクを考慮し、高校生と乳幼児との交流は今年度実施しないこととした。 ⑦子育てセンターなかよしで、ペアレントトレーニングを2コース実施 ⑧両センターで、一時預かり事業を実施	【評価 B】 1.子育てひろば親子利用者数 4,492人 2.相談、援助件数 331件 3.子育てサークル等関係機関との連携件数 23件 4.一時預かりお断り件数 5件	3	2						子育て支援センターの取組みを強化することによって、保護者の子育てに対する不安および育児負担を軽減し、地域で親子を育みながら、子どもの健やかな育ちを促す。 1.子育てひろば延べ親子利用者数/年 8,000人/年以上 2.相談、援助件数 480人/年以上 3.子育てサークル等関係機関との連携件数 35件/年以上 4.一時預かりお断り件数 50件/年 以下
③ ファミリー・サポート・センターの活性化 (保)	<ul style="list-style-type: none"> <li>広報活動や会員の募集</li> <li>登録その他の会員組織業務を管理</li> <li>相互援助活動の調整等を実施</li> <li>会員に対して相互援助に必要な知識を付与する講習会の開催</li> <li>会員の交流を深め、情報交換の場を提供するための交流会の開催</li> <li>子育て支援関連施設・事業との連絡調整</li> </ul>	H30年度から開始したファミリー・サポート・センター事業が徐々に周知されてきたものの、援助会員数不足でマッチングしづらい状況にある。また、育児の手助けとして、安心して相互援助活動を活用してもらう必要がある。	相互援助活動の件数は後期到達目標の数値に到達している。一方で、援助会員数の不足によりマッチングしづらい状況があることから、援助会員数を増加させ、相互援助活動を活用しやすい状況を整える必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>WEBサイトを活用した広報活動や会員の募集</li> <li>登録その他の会員組織業務を管理、相互援助活動の調整等を実施</li> <li>会員に対して相互援助に必要な知識を付与する講習会やスキルアップ講習の開催</li> <li>会員の交流を深め、情報交換の場を提供するための交流会の開催</li> <li>子育て支援関連施設・事業との連絡調整</li> </ul>	【評価 A】 ①広報活動や会員の募集を実施 ②登録その他の会員組織業務を管理、相互援助活動の調整等を実施 ③会員に対して相互援助に必要な知識を付与する講習会を年2回実施。又、一部の講習は収録し、その視聴による部分受講を可能とするなどとして受講機会を増設した。 ④会員交流と情報交換を目的に、会員や地域住民が参加できるいなかみひろばや講座を実施 ⑤子育て支援関連施設・事業との連絡調整の実施	【評価 B】 1.広報掲載数2回、チラシ配布数 1000枚、ファミサポ通信3回・1600枚 2.HPカウント数 7733件 3.相互援助活動件数 923件	3	3						多様な子育て世代の生活形態に対応でき、安心安全に子育てをサポートする。 1.広報掲載数2～3件/年、チラシ配布数1500枚、ファミサポ通信4回2400枚 2.HPカウント数2500件/年 3.相互援助活動件数 300件/年



(2) 子育て支援と親支援の推進

		行動実績・到達目標の達成状況の内部評価					内部評価							
		A:目標(予定)を達成できた、B:目標(予定)を一部達成できなかった、C:目標(予定)をほとんど達成できなかった					4:想定以上の成果、3:概ね想定どおりの成果、2:成果が得られたが改善が必要、1:見直しが必要							
対策名	取組の概要	年度当初の現状 (課題等)	具体的な到達目標 (有べき姿・望ましい状況)	具体的な取り組み (計画・実施)	行動実績	到達目標の達成状況	内部 評価	外部 評価	R1	R2	R3	R4	R5	令和5年度末達成目標 (後期到達目標)
④ 子どもの 放課後対策の充 実  (学校)	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども教室を地域コーディネーター(教育経験者)を中心に実施</li> <li>長期休暇や土日等休暇を利用した、企画の実施</li> <li>児童クラブ支援員の資質・専門性の向上</li> <li>特別な教育的支援の必要な子どもへの支援体制</li> <li>環境の整備と充実</li> <li>小学校と児童クラブとの連携・情報の共有</li> </ul>	未来を担う子どもたちの成長を支えるには、地域と学校が連携・協働し社会総掛かりで教育を行うことが必要であり、全ての子どもたちが放課後等安心・安全に過ごし、多様な体験・交流・学習活動を行うことができる環境づくりが課題	未来を担う子どもたちの成長を支えるには、地域と学校が連携・協働し社会総掛かりで教育を行うことが必要であり、全ての子どもたちが放課後等安心・安全に過ごし、多様な体験・交流・学習活動を行うことができる環境づくりが課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども教室を地域コーディネーター(教育経験者)を中心に実施</li> <li>長期休暇や土日等休暇を利用した企画の実施</li> <li>児童クラブ支援員の資質・専門性の向上</li> <li>特別な教育的支援の必要な子どもへの支援体制</li> <li>環境の整備と充実</li> <li>小学校と児童クラブとの連携・情報の共有</li> </ul>	【評価 B】 ・子ども教室を地域コーディネーター(教育経験者)を中心に実施(香長・片地) ・長期休暇や土日等休暇を利用した企画の実施(10クラブ中10) ・児童クラブ支援員の資質・専門性の向上(R3認定研修参加者5人) ・特別な教育的支援の必要な子どもへの支援体制 ・環境の整備と充実 ・小学校と児童クラブとの連携・情報の共有	【評価 B】 未来を担う子どもたちの成長を支えるには、地域と学校が連携・協働し社会総掛かりで教育を行うことが必要であり、全ての子どもたちが放課後等安心・安全に過ごし、多様な体験・交流・学習活動を行うことができる環境づくりが課題	2	3						地域と学校が連携・協働し、幅広い地域住民や企業・団体等の参画により、子どもたちの成長を支え、地域を創生する活動を推進する。 また、取組を通し、子どもたちの社会性・自主性・創造性等の豊かな人間性を育む。
														1.子ども教室については、全小学校(7校)実施 2.全児童クラブの支援員の有資格者2名以上 3.建替え未実施の6児童クラブの建設を完了。 4.学校と児童クラブの連携(共有の場の設置)がすべての小学校区でできている。

<視点2>

市民が協働し、ともに支え合い、高め合う地域社会を築きます

【関係性】到達目標の達成状況 A:4.3 B:3.2 C:1

(3) 市民協働で地域の教育力を高める取組の推進

対策名	取組の概要	年度当初の現状 (課題等)	具体的な到達目標 (有るべき姿・望ましい状況)	具体的な取組み (計画・実施)	行動実績	到達目標の達成状況	内部評価					令和5年度末達成目標 (後期到達目標)		
							内部評価	外部評価	R1	R2	R3		R4	R5
① コミュニティ・スクール・地域学校協働本部の活性化  (学校)	・学校運営協議会の充実・地域学校協働本部の活性化 ・学校・家庭・地域が協働した地域活動の充実(放課後児童クラブを含む)	全校に学校運営協議会を設置。年間4～7回の会を開催。令和3年5月には、大学教授による研修会を実施した。学校・家庭・地域との連携については、市民や保護者への認知度の浸透に課題がある。 1.市民に聞いたCS認知度 17.4%(H29年度よってたかってアンケート) 2.保護者に聞いたCS認知度 33.2%(H29年度よってたかってアンケート) 3.地域学校協働活動のべ日数210日以上 0校(市調査)	1.各学校運営協議会で、定期的な会の実施 2.保護者に聞いたCS認知度 35%以上(よってたかってアンケート) 3.地域学校協働活動のべ日数 210日以上 3校(市調査)	・各学校で計画的な学校運営協議会の実施。(年5回程度) ・地域学校協働本部の総会の開催。 ・地域学校協働活動推進員の研修(年5回)	【評価 B】 ①各学校で計画的な学校運営協議会の実施。4～7回実施100%(実施予定含む) ②地域学校協働本部の総会を開催。(2/10校) ③地域学校協働活動推進員の研修年5回(実施予定含む)	【評価 B】 1.各学校運営協議会で、定期的な会の実施。(年3～4回程度) 2.保護者に聞いたCS認知度(よってたかってアンケート)未実施 3.各学校の地域学校協働本部の活動のべ210日以上(4校)	2	3						すべての学校に学校運営協議会が設置され、コミュニティ・スクールが進むことにより、地域と協働した学校・地域づくりができる。  1.市民のCSに対する認知度 50% 2.保護者のCSに対する認知度 70% 3.各学校の地域学校協働本部の活動のべ日数 250日/校
② 防災教育の推進  (学校)	・高知県安全教育プログラムを活用した防災学習と避難訓練の継続的実施 ・保護者や地域を交えた避難訓練・防災学習の実施 ・地域学校協働本部と連携した防災訓練の実施 ・自助・防災に関するアンケートの実施 ・危機管理マニュアルの見直し(組織として連携した)	各校で高知県安全教育プログラムに基づく防災学習と避難訓練を実施。学校内における火災・地震等の避難行動は身につけてきたが、自ら判断し避難行動を行う(自助)等、地域や家庭を巻き込んだ防災教育の充実(自治防災組織との連携)など日常的な防災意識の高まりが課題。 1.防災・減災の知識の確立(防災学習実施:年間5時間以上) 2.危険回避・避難できる力の育成(避難訓練:年間3回以上) 3.地域・保護者を交えた防災訓練実施(1/10校実施) <学校安全取組アンケート(県)> 4.学校安全マニュアル・危機管理マニュアルの見直しが必要	各校で高知県安全教育プログラムに基づく防災学習と避難訓練の実施。自ら判断し避難行動を行う(自助)等、地域や家庭を巻き込んだ防災教育の充実(自治防災組織との連携)など日常的な防災意識を高める研修会の実施。 1.防災・減災の知識の確立(防災学習実施:年間5時間以上) 2.危険回避・避難できる力の育成(避難訓練:年間3回以上) 3.地域・保護者を交えた防災訓練実施 <学校安全取組アンケート(県)> 4.学校安全マニュアル・危機管理マニュアルの見直し(全10校)	・高知県安全教育プログラムを活用した防災学習と避難訓練の継続的実施 ・保護者や地域を交えた避難訓練・防災学習の実施 ・地域学校協働本部と連携した防災訓練の実施 ・自助・防災に関するアンケートの実施 ・学校安全マニュアル・危機管理マニュアルの見直し(組織として連携した)	【評価 A】 1.高知県安全教育プログラムを活用した防災学習と避難訓練の継続的実施(防災学習年間5時間実施10/10校) 2.避難訓練の実施(各校年間3回以上)(10/10校) 3.地域・保護者を交えた防災訓練(1/10校) 4.危機管理マニュアルの見直し(組織として連携した)(10/10校)	【評価 B】 コロナ禍において、保護者・地域等の外部関係者を招いての研修や体験活動ができない状況であった。防災を含む安全教育の充実においては、舟入小を拠点校とした県事業「高知県学校安全総合支援事業」により危機管理マニュアルの見直しなど実施することができた。 1.防災・減災の知識の確立(防災学習実施:年間5時間以上)(実施10/10校) 2.危険回避・避難できる力の育成(避難訓練:年間3回以上)(実施10/10校) 3.地域・保護者を交えた防災訓練実施(1/10校実施)(聞き取り) 4.危機管理マニュアルの見直し(全10校)	3	3					防災・減災の知識を確立し、危険回避や避難行動ができる力を育成するとともに、家庭や地域の中で自助行動や危険回避行動ができる力の確立  1.防災・減災の知識の確立 自助・防災に関するアンケート「地震が起きた時、自分で判断して揺れから身を守ることができますか。」「一人で登下校している時、地震が起きたら、安全な場所に避難することができますか。」両問とも「できる」と回答した割合 80% 2.地域や家庭の中でも危険回避・避難行動ができる力の育成(避難訓練:年間3回以上、うち地域や保護者を交えた避難訓練年間1回以上) 3.地域学校協働本部と連携した防災訓練、学習の実施 10/10校	
③ 地域等との連携による子どもの健全育成活動  (育)	・異年齢、異世代交流、地域の見守り、土佐山田まつりや地域交流夏休みラジオ体操の実施 ・子ども会活動の内容検討 ・ピットリマラソン大会の開催 ・補導委員や香美市子ども見守り活動連絡協議会(やまびこ会)と協力した見守り活動の実施 ・補導状況による検討	子ども会加入者数が減少傾向で、活動が衰退している地域子ども会がある。また、育成者や指導者が不足してきている。子ども会活動の状況 1.地域行事 のべ67回 2.土佐山田まつり参加者数(昨年中止) 3.やまびこ会会員数 82人	子ども会の新規加入者を募り、地域子ども会活動の活性化を推進する。育成者や指導者を育成・発掘する。 香美市子ども見守り活動連絡協議会(やまびこ会)活動の充実を図る。子ども会活動の状況 1.地域行事 のべ100回 2.土佐山田まつり参加者数 180人 3.やまびこ会会員数 90人	・地域子ども会行事の支援 ・土佐山田まつりへの参加 ・ピットリタイムマラソン大会開催 ・やまびこ会活動の支援 ・定期巡回、特別巡回の実施	【評価 C】 ・地域子ども会行事の支援(安全共済加入 494人) ・土佐山田まつり(中止) ・ピットリタイムマラソン大会(中止) ・やまびこ会活動の支援(研修会は中止) ・定期巡回の実施、特別巡回の中止	【評価 C】 子ども会活動の状況 ・地域行事 のべ36回(12月末時点) ・土佐山田まつり参加者数 0人 ・やまびこ会会員数 72人	1	2					子ども会連合会活動を通して、地域子ども会活動を活性化し、地域の実情に応じた活動内容の充実につなげていく。地域で子供を見守る関係機関のネットワークによる安全、安心のまちづくりがすすむ。  子ども会活動の状況 1.地域行事 のべ200回 2.土佐山田まつり参加者数 200人 3.やまびこ会会員数 100人	



<視点3>

夢を育み、新たな価値を創造する教育を展開します

【関係性】到達目標の達成状況 A:4.3 B:3.2 C:1

(1) 次世代を見通した教育の環境整備と実践

対策名	取組の概要	年度当初の現状 (課題等)	行動実績・到達目標の達成状況の内部評価				内部評価					令和5年度末達成目標 (後期到達目標)		
			具体的な到達目標 (有るべき姿・望ましい状況)	具体的な取り組み (計画・実施)	行動実績	到達目標の達成状況	内部評価	外部評価	R1	R2	R3		R4	R5
① 国際バカロレア教育の研究 (学保)	<p>&lt;大宮小学校&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>組織的な研究体制の構築</li> <li>IB教育の教育課程の研究・研修の充実</li> <li>IB校及び候補校との連携・交流(オーストラリア・アデレード IB認定校 イマニュエル・プライマリースクール、候補校 高知国際中学校)</li> <li>IB教育のための予算確保(年会費、環境整備等)</li> </ul> <p>&lt;香北中学校&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>IB教育の研究のスタート(H31~)</li> </ul> <p>&lt;大宮小学校・美良布保育園&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国際バカロレアを核とした保小連携に関する研究</li> </ul>	<p>【大宮小学校】R3年1月に認定になった。</p> <p>【香北中学校】R2年11月に候補校になった。コンサルによる支援のもと、認定を目指し、準備を進めている。9月にコンサル訪問予定である。</p> <p>学力状況</p> <p>1.「H31全国学調」(全国との差)</p> <p>大宮小 国 +9.2p 算 +9.4p 香北中 国 -1.8p 数 +2.2p</p> <p>2.「R2高知県学力学習状況調査」(全国平均との差)</p> <p>大宮小 小4: 国+5.9p 算+8.8p 小5: 国+3.6p 算+9.5p 香北中 中1: 国+2.7p 数-4.0p 中2: 国+3.6p 数+7.4p</p> <p>3.「R2標準学力調査」(全国との差)</p> <p>大宮小 国 2年~6年 -0.6p~+5.2p 算 2年~6年 -4.2p~+4.7p 香北中 国 1年~3年 +1.7p~+4.5p 数 1年~3年 -8.0~-0.1p</p> <p>3.国際バカロレアを核とした小中の交流(通年)</p>	<p>&lt;大宮小学校&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>IB教育のさらなる充実を目指す。</li> <li>香美市内外に向けて、成果を発信する。</li> </ul> <p>&lt;香北中学校&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>IB教育の研究が組織的に進む。</li> <li>IBプログラムの枠組みに基づいた授業が充実する。</li> <li>高知国際中学校との連携が強化される。</li> </ul> <p>大宮小と香北中のIB教育を9年間の系統的な学びについて、教職員が理解を深める。</p>	<p>&lt;大宮小学校&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研究推進チームが中心となり、定期的なミーティングを実施する。</li> <li>研修会の充実</li> <li>講師招聘による校内研修会</li> <li>ワークショップへの参加</li> <li>各担当による定期的な研修会</li> <li>香北中との合同研修会</li> <li>IB校交流会の実施</li> <li>オーストラリア・イマニュエル・プライマリースクールの交流担当者との連携を図り、交流の充実を図る。</li> <li>公開授業研究会の実施(5月、11月)</li> </ul> <p>&lt;香北中学校&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>認定の準備を進める。(資料作成・教員研修)</li> <li>研究推進チームが中心となり、定期的なミーティングを実施する。</li> <li>講師招聘による校内研修会</li> <li>ワークショップへの参加</li> <li>大宮小との合同研修会</li> <li>コンサル訪問(9月)</li> <li>高知国際中の研修会への参加</li> <li>高知国際中の授業参観</li> </ul>	<p>【評価 B】</p> <p>&lt;大宮小学校&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①定期的なミーティング(毎金)</li> <li>②香北中合同研修会(8月2日)</li> <li>③zoom会議を活用した交流会(イマニュエル・プライマリースクール年間2回)</li> <li>④公開授業研究会(5月7日(対象):教頭・主幹教諭、研究主任)</li> <li>⑤校内授業研修会(全学年)11月29日(対象):管理職等</li> <li>⑥校内授業研修会(全学年)5月7日(対象):教頭・主幹教諭、研究主任</li> </ul> <p>&lt;香北中学校&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①コンサル訪問の実施(認定に向けた進捗の報告及び改善点についてアドバイスをもらう。9月30日、10月1日)</li> <li>②研修・交流の充実</li> <li>講師招聘による研修会(インクルーシブ教育)(4月13日、7月12日、12月17日)</li> <li>高知国際中の公開授業研究会(11月17日)</li> <li>大阪教育大付属池田中学校とのオンライン交流(10月8日)</li> <li>大阪教育大付属池田中学校への訪問(コーディネーター)(11月12日)</li> <li>IBワークショップへの参加</li> </ul>	<p>【評価 B】</p> <p>&lt;大宮小学校&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コーディネーターを中心として、PDCAを回しながら、IB教育の充実を図ることができた。</li> <li>公開授業研究会等を通じて、日ごろの実践を広く発信することができた。2月19日には香美市立教育研究所の発表会でも実践報告をする予定である。</li> </ul> <p>&lt;香北中学校&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コンサルからのアドバイスを受け、改善点が明確になり、認定に向けて取組が進んでいる。また、IB校との交流や視察訪問を通して、他校の実践から学ぶ機会が増え、教員も生徒もより充実した教員の教育実践が積みあがっている。また、教科の枠を超えて教員間でチームを組むことで、横の繋がりも強固になった。R4年9月の認定を目指す。</li> </ul> <p>※学力状況(全国との差)</p> <p>「R3全国学調」大宮小 国+2.3p算-0.2p 香北中 国+8.4p 数+5.8p 「R3県学力定着状況調査」 小4国-9.4p算-14.6p 小5国-1p算-0.1p 中1国+0.9p数-11.9p 中2国+10.3p数+6p 「R3標準学力調査」小1国+3p算+0.9p 小2国-2p算-8.9p 小3国+2.3p算+4.9p</p>	3	4	R1	R2	R3	R4	R5	<p>大宮小学校及び香北中学校が、IB認定校となる。特に、大宮小学校においては、IB教育のさらなる充実を目指すとともに、市内及び県内への発信を積極的に行う。</p> <p>1.大宮小学校・香北中学校の学力状況 「全国学調」全国との差+5.0p以上 「標準学力調査」(全国との差)大宮小 国+10.0p以上 香北中 国+算 +5.0p以上</p> <p>2.国際バカロレアを核とした保小中の交流が進む。(2回/年)</p> <p>3.小学校、中学校がIB認定校となる。</p>
② 外国語(英語)教育の推進 (学保)	<p>(1)授業改善に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>先進校視察</li> <li>市内保育園、小学校、中学校へのALT配置</li> <li>GTECによる学力実態把握(中学2年生)</li> <li>香美市版CAN-DOリスト(到達度目標)の作成・検証</li> <li>授業改善を目指した研修会の充実</li> <li>小中外国語担当者の実施</li> <li>小中連携、小中連携の充実</li> </ul> <p>(2)国際交流の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>姉妹校交流(オーストラリア・アデレード)</li> <li>各校での国際交流会の実施</li> <li>イングリッシュデイキャンプの実施(小中学生対象(8月))</li> </ul>	<p>1.昨年度より小学校の学習指導要領、今年度より中学校の学習指導要領全面実施に伴い、小中9年間を見通した、到達度目標の共通理解と評価、授業改善が必要である。</p> <p>2.&lt;R3外国語意識調査&gt;5月実施</p> <p>(1)英語で自分のことや意見を発表することが楽しい。</p> <p>88%以上を維持(小・高学年)</p> <p>(2)英語の授業を理解している。</p> <p>85%以上(小・高学年)</p> <p>(3)小中のつながりを意識した指導ができています。85%以上(小・高学年)</p> <p>(4)自分の地域・学校では、小中連携や小中連携ができています。65.5%</p> <p>(5)学校全体で英語教育を推進する体制ができています。89.7%</p> <p>3.英検3級程度の力を持っている中3生 42.5%(R2英研IBA結果)</p>	<p>1.小中連携が充実し、各学年の到達度目標と評価の一体化に関する研究が推進される。</p> <p>2.&lt;R3外国語意識調査&gt;2月実施(肯定回答)</p> <p>(1)英語で自分のことや意見を発表することが楽しい。</p> <p>88%以上を維持(小・高学年)</p> <p>(2)英語の授業を理解している。</p> <p>85%以上(小・高学年)</p> <p>(3)小中のつながりを意識した指導ができています。85%以上(小・高学年)</p> <p>(4)自分の地域・学校では、小中連携や小中連携ができています。65.5%</p> <p>(5)学校全体で英語教育を推進する体制ができています。89.7%</p> <p>3.英検3級程度の力を持っている中3生 45%(英検IBA結果)</p>	<p>1.研究の充実</p> <p>(1)英語調査の実施及び分析・授業改善</p> <p>GTEC(4技能調査 対象:小6、中2)、英検IBA(対象:中3)</p> <p>(2)英語推進委員会の開催</p> <p>(3)講師招聘による公開授業研究会(大宮小、山田小)</p> <p>(4)先進校視察</p> <p>(5)到達度目標の見直し</p> <p>(6)学びをつなぐ学校づくり研究会(各中学校区)</p> <p>2.児童生徒の興味関心を高めるための取組</p> <p>国際交流会及び小中・小中交流会の実施</p>	<p>【評価 B】</p> <p>1.(1)英語①意識調査(5月2月実施)結果をもとに授業改善に取り組んだ。</p> <p>GTEC(小12月、中1月実施)、英検IBA(11月実施)※GTECの結果は2月予定</p> <p>②外国語研修会(5月13日、6月8日、1月20日、2月24日)</p> <p>③公開授業研究会</p> <p>大宮小:6月18日、10月15日、2月1日 山田小:11月25日 香北中:6月18日、2月1日</p> <p>④到達度目標の見直し</p> <p>※視察研修は新型コロナウイルス感染症拡大の防止のため中止</p> <p>2 国際交流会の実施(6月15日鏡野中、7月22日大宮小、9月30日鏡野中、10月15日鏡野中、10月23日、11月24日、12月4日大宮小)</p> <p>※ZOOM会議を活用した、交流会を予定(大宮小・片地小 2月18日)</p>	<p>【評価 B】</p> <p>①大宮小を研究指定校として、外国語の評価について研究し、その成果を市内小中学校へ発信することができた。また香北中学校と合同で開催することで、小中の系統性のある学びについて提案することができた。</p> <p>②&lt;R3外国語意識調査&gt; 2月8日12日実施予定</p> <p>大宮小:6月18日、10月15日、2月1日 山田小:11月25日 香北中:6月18日、2月1日</p> <p>(1)(小・高学年)80.1%(小・高学年)70.6%</p> <p>(2)(中1)75.6%</p> <p>(3)(小教)75.8%</p> <p>(4)(小教)78.8%</p> <p>(5)今年度は調査なし</p> <p>3 英検3級程度の力を持っている中3生51.6%(英研IBA結果)※R2との比較+9.1p</p>	3	3	R1	R2	R3	R4	R5	<p>小中連携が充実し、各学年の到達度目標に沿った授業が展開される。</p> <p>&lt;外国語意識調査&gt;</p> <p>1.英語で自分のことや意見を発表することが楽しい。 75%(小・高学年)</p> <p>2.自分の考えなどを英語で話することができる。 70%(中1)</p> <p>3.学校全体での組織的な取組・教員の協力はできている。100%(小教)</p> <p>4.小中の系統的なカリキュラムの作成ができている。100%</p> <p>5.英検3級程度の力を持っている中3生60%</p>
③ 新図書館の活性化 (生)	<p>資料の収集・保存・提供を行う情報拠点であり、調査研究など利用者の様々な要求に対し、充実した蔵書を作り上げ、サービスの提供をしていく。</p> <p>1.新図書館開館に向けてハード面・ソフト面共に準備を進める。</p> <p>2.豊富な蔵書計画をたてる。</p> <p>3.多様なレファレンスに対応できるように、司書の資質力向上に努める。</p>	<p>現在の施設は狭小であることに加え、著しい老朽化のため、十分な機能を果たせていない。</p> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新図書館の施設及び運営内容の検討</li> <li>施設用地の確保</li> <li>設計図書を作成</li> <li>建設工事の実施</li> <li>蔵書が古く、蔵書数が少ないため蔵書計画に基づいた書架整備が必要【蔵書冊数53,317冊※視聴覚資料は除く】(令和3年3月31日現在)</li> <li>熟知した司書が少ないため、司書の育成および資質力向上が必要</li> </ul>	<p>生涯にわたり学び続けることのできる読書・情報環境を提供する図書館</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新図書館建設及び運営の充実</li> <li>施設用地の確保</li> <li>設計図書の作成</li> <li>建設工事の実施</li> <li>蔵書計画</li> <li>蔵書冊数約60,000冊(書架の60%)</li> <li>司書研修への参加(参加回数一人当たり年間5回)</li> </ul> <p>1.新図書館開館に向けてハード面・ソフト面共に準備を進める。</p> <p>2.蔵書計画をもとに資料購入を進める。</p> <p>3.多様なレファレンスに対応できるように、司書の資質力向上に努める。</p>	<p>資料の収集・保存・提供を行う情報拠点であり、調査研究など利用者の様々な要求に対し、充実した蔵書を作り上げ、サービスの提供をしていく。</p> <p>1.新図書館開館に向けてハード面・ソフト面共に準備を進める。</p> <p>2.蔵書計画に基づき資料購入を進めた。まちづくり応援基金及び地方創生交付金を活用し、市民の課題解決支援に役立つ資料購入に努めた。</p> <p>3.多様なレファレンスに対応できるように、司書の資質力向上に努めるべく、コロナ禍であってもオンライン研修など積極的に参加できた。</p>	<p>【評価 B】</p> <p>①新図書館開館に向けてハード面・ソフト面共に準備を進めることができた。図書館建設事業においては順調に建設工事が進捗しており、予定通り竣工の見込みである。</p> <p>②蔵書計画に基づき資料購入を進めた。まちづくり応援基金及び地方創生交付金を活用し、市民の課題解決支援に役立つ資料購入に努めた。</p> <p>③多様なレファレンスに対応できるように、司書の資質力向上に努めるべく、コロナ禍であってもオンライン研修など積極的に参加できた。</p>	<p>【評価 B】</p> <p>新図書館の建設及び運営の充実を図るため、以下のような取り組みを行った。</p> <p>【ハード面】</p> <p>建設工事は予定通りの完成見込みとなっている。開館に向け、細部の設計等を図書館、関係業者と綿密に打ち合わせ、開館後の利用がスムーズに進むよう努めている。</p> <p>【ソフト面】</p> <p>蔵書計画を作成、それに基づく購入により蔵書購入を進めている。また、司書の資質力向上を図るため積極的な研修へ参加をすすめている。(司書一人当たりの研修参加回数2.8回)</p>	3	3	R1	R2	R3	R4	R5	<p>図書館環境を整備することで、情報発信や交流の場として多くの市民に図書館を利用していただく。図書館を通して市民が学習意欲を高め、人づくりやまちづくりに大きく寄与できるよう課題解決支援をしていく。</p> <p>1.新図書館開館(令和4年度冬)</p> <p>2.蔵書冊数80,000冊(書架の80%)</p> <p>3.研修を通じて熟知した司書を育成する(参加回数一人当たり年間5回)</p>



<視点3>

夢を育み、新たな価値を創造する教育を展開します

【関係性】到達目標の達成状況 A:4.3 B:3.2 C:1

(1) 次世代を見通した教育の環境整備と実践

対策名		取組の概要	年度当初の現状 (課題等)	具体的な到達目標 (有べき姿・望ましい状況)	具体的な取り組み (計画・実施)	行動実績	到達目標の達成状況	内部評価	外部評価	R1	R2	R3	R4	R5	令和5年度末達成目標 (後期到達目標)	
④	ICT・IoT教育、情報モラル・リテラシー教育の推進  (学校)	<ul style="list-style-type: none"> <li>工科大学サークル等の小学校出前講座でのモラル学習の実施。</li> <li>教職員の情報機器を使った資質・専門性の向上。(タブレットの使用)</li> <li>プログラミング教育の推進。</li> <li>ICTやIoTの研究指定。(タブレット、プログラミング)</li> <li>教員の情報リテラシーの推進。</li> <li>ICT支援員の配置。(学校ホームページの更新支援を含む)</li> </ul>	<p>授業でのICT機器の活用は、進んでいるが、効果的な活用や最適な教育活動での使用が未だ不十分である。GIGAスクール構想に伴う環境整備は昨年度末に計画しており進んでおり、今後は活用に関する授業研究や教員のスキルアップが課題である。また、プログラミング教育や肖像権、知的所有権なども踏まえた計画的な教育が必要となっている。香美市におけるICT教育方向性や香美市プログラミング育成プランに基づいた実践が今後求められる。</p>	<p>1.情報モラルが指導できる教員強い肯定 50% (国情報調査) 2.教職員は「興味・関心を高める機器の使用ができる」強い肯定 50% (国情報調査) 3.小中学校のプログラミング教育の実施 全校(市調査)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>香美市情報教育研究会の計画的な開催。</li> <li>工科大学サークル・ICT支援員等の小学校出前講座でのモラル学習の実施。</li> <li>教職員の情報機器を使った資質・専門性の向上。(タブレットの使用)</li> <li>プログラミング教育の推進。(ロボットの貸出)</li> <li>ICTやIoTの研究指定。(タブレット、プログラミング)</li> <li>教員の情報リテラシーの推進。</li> <li>ICT支援員の配置。(学校ホームページの更新支援を含む)</li> </ul>	<p>【評価 B】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>GIGAスクール構想に伴う環境整備が年度当初に終了し、各校で運用が始まっている。</li> <li>授業におけるICT機器の活用は、日常的になってきたが、今後授業ベースでの活用に関する研修、研究が必要である。また、具体的なプログラミング教育の実践交流をとおして更なる充実が必要である。また、ICT活用に合わせた情報リテラシー教育の実施が必要である。</li> </ul>	<p>【評価 B】</p> <p>オンデマンドなどコロナ禍において新しい研修の機会としての需要が高まり、活用が進んだ。 <p>授業におけるICT機器の活用は、日常的になってきたが、今後授業ベースでの活用に関する研修、研究が必要である。また、具体的なプログラミング教育の実践交流をとおして更なる充実が必要である。また、ICT活用に合わせた情報リテラシー教育の実施が必要である。</p> </p>	3	3	①情報モラル教育の充実	②情報モラル教育の定着	③ICT教育の研究指定と市内への普及	④IoT教育の研究指定	⑤プログラミング教育の準備	⑥プログラミング教育の施行・実施	<p>授業で児童生徒がICTを活用した効果的な学習ができている。また、知的所有権・情報モラル等を十分理解した情報発信ができている。</p> <p>1.児童生徒はパソコンやタブレットを使って「調べものをする」80% 2.情報モラルが指導できる教員強い肯定 60% 3.教職員は「興味関心を高める機器の使用ができる」強い肯定60% (国情報調査) 4.小学校のプログラミング学習の実施7校(市調査)</p>
⑤	小中学校の働き方改革の推進  (学生)	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務標準化、効率化、組織対応による取組(校務支援システムの導入、勤怠管理を含む)</li> <li>運動部活動の社会スポーツへの接続研究</li> <li>校長による学校マネジメントの取組</li> <li>市教委からの業務改善の手立て(閉庁日、退勤時間等の設定)</li> <li>外部の協力を得ること(CSや地域学校協働本部)による取組</li> <li>予算措置による負担軽減(設備、人的配置)</li> </ul>	<p>国や県の指針が出される中、学校の業務は肥大化の一方であり、勤務実態に大きな課題がある。教員の意識改革とともに、外部の方の協力も得ながら、役割を明確にする。香美市教職員の働き方改革検討協議会から出された意見書をもとに、目標達成に向けて全職場で取組を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域スポーツ活動の研究(部活動)の立ち上げ</li> <li>業務標準化、効率化、組織対応による取組(校務支援システムの導入、勤怠管理を含む)</li> <li>運動部活動の社会スポーツへの接続研究</li> <li>校長による学校マネジメントの取組</li> <li>市教委からの業務改善の手立て(閉校日、定時退校日の実施、退勤時間等の設定・留守番電話の設置・事務補助支援員の配置校増)</li> <li>年2回のストレスチェックの実施</li> <li>外部の協力を得ること(CSや地域学校協働本部)による取組</li> <li>予算措置による負担軽減(設備、人的配置)</li> </ul>	<p>【評価 B】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域スポーツ活動の研究(部活動)の立ち上げに向けて状況収集の段階である。</li> <li>業務標準化、効率化、組織対応による取組を行うため校務支援システムの導入(勤怠管理を含む)による実態の把握を年度当初から全校で実施。</li> <li>運動部活動の社会スポーツへの接続研究は、教職員の働き方改革と合わせて生涯教育課と議論を始める予定。</li> <li>県事業「共同学校事務室における働き方改革実践事業」を受け月一回定期的に会を開催し連携して働き方改革を進めた。また校長会等で現状を公表し校長による学校マネジメント力の育成を図った。</li> <li>夏季休業中の全市統一学校閉庁日の実施(5日間)、月1回第2水曜日全校定時退校日の実施。</li> <li>外部(CSや地域学校協働本部)の学校行事、授業参加等への協力を得ることによる学校の負担軽減への取組</li> <li>学校事務補助員の配置(山田小・鏡野中、舟入小・香長小・楠目小・片地小・大宮小)</li> </ul>	<p>【評価 B】</p> <p>昨年度の教職員の働き方改革に向けて、検討協議会の提言に基づき、実施可能なものから実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全校統一定時退校日の設定(第2水曜日)</li> <li>留守番電話の設置</li> <li>年間2回の意識調査の実施</li> <li>働き方についての学校訪問(年間2回)</li> <li>CSの全市設置によるさらなる協力、役割の明確を進める必要がある。また、令和5年度の地域部活動に向けて情報収集及び検討協議会を開催する必要がある。</li> </ul>	2	3	①実証実験	校務支援システムの導入と活用	支援システムの定着	②地域スポーツ活動の研究(中学校運動部活動)	地域スポーツ活動の施行	③管理職のマネジメント	④予算措置による負担軽減	<p>学校の業務が精選され、子どもたちと向き合う時間の確保が改善される。教員の意識改革も図られ、外部の方の協力も得ながら、チーム学校として「よってたかって教育」が推進される。</p> <p>1.正規の勤務時間を意識して仕事をしている教職員。4.0(5件法)あてはまる=5(5件法) 2.日々の業務の中で忙しいと感じているか4.0(5件法) 3.超過勤務80時間以上の教職員 5%</p>



<視点3>

夢を育み、新たな価値を創造する教育を展開します

【関係性】到達目標の達成状況 A:4.3 B:3.2 C:1

(2) 高知工科大学との連携

対策名	取組の概要	年度当初の現状 (課題等)	行動実績・到達目標の達成状況の内部評価			内部評価					令和5年度末達成目標 (後期到達目標)			
			具体的な到達目標 (有るべき姿・望ましい状況)	具体的な取り組み (計画・実施)	行動実績	到達目標の達成状況	内部評価	外部評価	R1	R2		R3	R4	R5
① 山田高等学校・高知工科大学学生による小中学校との交流・活動の推進  (学校)	香美市内の小中学生が山田高校へ足を踏み入れる場の設定 ・香美市理科クラブ ・香美市デイキャンプ ・山田高校生、高知工科大学の小中学校への関わる取組(放課後子ども教室、読み聞かせ、授業支援等) ・工科大学のサークルを活用した活動の充実 ・キャリアチャレンジデーやキッズチャレンジデーでの山田高生徒や工科大学生の力を借りた活動	山田高校は、市内中心部にある高校であるが、その施設に行ったことのない小中学生が多い。また、工科大学とは多くの交流の場を準備しているが、機会は少ない。 1.愛着度、「愛着がある」「どちらかと言えば愛着がある」と答えた小中学生 山田高 60% 工科大 75%(よってたかってアンケート) 2.香美市内からの山田高校への進学率 28% 3.香美市から工科大学への進学者数 7名 4.香美市理科クラブ開催に向けて生涯学習課との連携	1.愛着度、「愛着がある」「どちらかと言えば愛着がある」と答えた小中学生 山田高 65% 工科大 78%(よってたかってアンケート) 2.香美市内からの山田高校への進学率30% 3.香美市から工科大学への進学者数 10名 4.香美市理科クラブ開催に際し生涯学習課との連携・協力	香美市内の小中学生が山田高校へ足を踏み入れる場の設定 ・山田高校生、高知工科大学の小中学校への関わる取組(放課後子ども教室、読み聞かせ、授業支援等) ・工科大学のサークルを活用した活動の充実 ・キャリアチャレンジデーやキッズチャレンジデーでの山田高生徒や工科大学生の力を借りた活動 ・よってたかって生涯フォーラムへの参加・協力 ・香美市理科クラブへの協力	【評価 B】 ①山田高校生、高知工科大学の小中学校への関わる取組実施(放課後子ども教室、授業支援、取組紹介等) 校長会での山田高校の実践発表 ②山田高校文化祭への参加(R3年度中止) ③高知工科大学による各校の支援の実施(片地小・大橋中) ④香美市理科クラブの開催※公民館活動として(年間6回:7回実施予定のうち、1回はコロナのため中止)	【評価 B】 コロナ禍の中、訪問等の直接的な支援は、減少しているがICTを活用した支援交流等は工夫しながら行うことができおり、今後拡充するなど方向で考えていきたい。 1.山田高等学校に行ったことがある(小3 21% 中3 89.6%) 2.愛着度、「愛着がある」「どちらかと言えば愛着がある」と答えた小中学生(よってたかってアンケート未実施) 3.香美市内からの山田高校への進学率(28%) 4.香美市から工科大学への進学者数(7名)	2	2	①香美市理科クラブ・山田高文化祭等での小中学生と高校生の交流	②③山田高校生・高知工科大学生による学習ボランティア等による特別授業等の実施	④キャリアチャレンジデー・キッズチャレンジデーの実施	1.山田高等学校に行ったことのある 小 65% 中3 100% 2.愛着度、「愛着がある」「どちらかと言えば愛着がある」と答えた小中学生 山田高 60% 工科大 75% 3.香美市内からの山田高校への進学率 35% 4.香美市から工科大学への進学者数 30名		
② 高知工科大学の施設や「知」を活用した連携活動の推進  (学校)	・キャリアチャレンジデーの実施 ・香美市音楽会、コラボプレゼンフェアの実施 ・現職教職員による大学での講義実習 ・子どもの育ち長期調査の実施	小中学生はキャリアチャレンジデーや音楽会等の実施により工科大学を身近に感じることができた。しかし令和2年度は、新型コロナウイルスの影響で、高知工科大学での取組は実施できなかった。 1.工科大学に行ったことがある 小3 60.6% 中3 93.6%(R2年度ふるさとプログラムアンケート) 2.工科大学に愛着がある 市民 75.0%(H29年度よってたかってアンケート) 3.高知工科大学の小中学校への学習支援 R2年度 1/10校(聞き取り)※新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかった学校がある。	1.高知工科大学に行ったことがある 小3 65.0% 中3 95.0%(ふるさとプログラムアンケート) 2.高知工科大学の小中学校への学習支援参加 4/10校(聞き取り)	・キャリアチャレンジデーの実施(オンライン実施による学生のサポート) ・現職教職員による大学での講義実習 ・子どもの育ち長期調査の実施	【評価 B】 ①キャリアチャレンジデーのオンライン実施(学生サポートはコロナの影響で中断) ①現職教職員による大学での講義実習 ②子どもの育ち長期調査の実施	【評価 B】 1.高知工科大学に行ったことがある(小3 47% 中3 92%) 2.工科大学に愛着がある(よってたかってアンケート未実施) 3.高知工科大学の小中学校への学習支援参加 1/10校	2	3	①キャリアチャレンジデーの実施	②香美市音楽会・コラボプレゼンフェアの実施	③工科大学での講義実習の実施	④子どもの育ち長期調査の実施	実施の再検討	香美市の児童生徒や市民が高知工科大学の施設と学生、教職員等を身近に感じ、日常的な交流ができる。 1.工科大学に行ったことがある。 小6 100% 中3 100% 2.工科大学に愛着がある。 市民 85% 3.日常的に学習の交流ができる小中学校 6校

<視点3>

夢を育み、新たな価値を創造する教育を展開します

【関係性】到達目標の達成状況 A:4.3 B:3.2 C:1

(3) 生涯を通じた豊かな学びと文化・芸術、スポーツ活動の充実

行動実績・到達目標の達成状況の内部評価  
A: 目標(予定)を達成できた、B: 目標(予定)を一部達成できなかった、C: 目標(予定)をほとんど達成できなかった

内部評価  
4: 想定以上の成果、3: 概ね想定どおりの成果、2: 成果が得られたが改善が必要、1: 見直しが必要

①	対策名	取組の概要	年度当初の現状(課題等)	具体的な到達目標(有るべき姿・望ましい状況)	具体的な取り組み(計画・実施)	行動実績	到達目標の達成状況	内部評価					令和5年度末達成目標(後期到達目標)		
								内部評価	外部評価	R1	R2	R3		R4	R5
(生)	美術館による講座、情報発信、収蔵作品の活用	・アトリエ講座の充実 ・小学校のみならず、中学校での出前講座の開設 ・収蔵作品の持ち味を活かし見せ方を工夫した展覧会を企画 ・展覧会や講座の情報を広報やチラシで配布。美術館の催しを掲載できる情報誌から情報サイトへも拡充し、香美市内外へ多く発信	年5~6回の展覧会、アトリエ講座や展示室等の貸館事業を続け、美術館の活動が知られてきてはいるが、美術館に訪れる方がまだまだ少ないのが現状。 1.アトリエ講座の参加率88%(令和2年度実績) 2.小学校全校への出前講座7校(令和2年度実績) 3.情報サイトによる掲載2社追加(令和2年度実績) 4.収蔵作品の展覧会年2回、活用率82%(令和2年度実績)	年5回の展覧会(収蔵品展2回、企画展3回)、講座や貸館事業を続け、美術館の活動が知られてきてはいるが、若者の来館が少ないため、幅広い年齢層に対応した企画展や情報サイトによる広報活動が必要。 1.アトリエ講座の参加率88% 2.小中学校全校への出前講座8校 3.情報サイトによる掲載1社追加 4.収蔵作品の展覧会年2回、活用率83%	・アトリエ講座 子どもWSの内容を見直し、技術面の差から小・中学生を分けて企画した。3年度は小学生対象講座で開催。 おとなWSの参加者を確保するため5月、11月、2月で開催。 ・香美市内の全校参加を目指し、小中学校への美術館や鑑賞教育の普及活動を行う。 ・展覧会情報をホームページ、Facebook、情報誌への掲載や企画等に参画することで情報発信する。 ・収蔵作品展について、木や花など自然の様子を中心に描いた「美術の森展」、通常展示されることが少ない作品を集めた「怖い絵展」を開催し、幅広い年齢層の入館を目指す。	【評価 B】 ・アトリエ講座 6回開講 子どもWS(小学生対象) 3回 おとなWS 3回(2月予定含む) ・出前教室や鑑賞教育の呼びかけを行い、出前教室では小学校は7校全ての参加があり、鑑賞教育では小学校1校、中学校1校の参加があった ・広報活動として、TV、新聞、ラジオ、HP、Facebookにより掲載することで情報発信した。参加は3社増となった。 ・収蔵作品と外部作家の作品を出展していただき、合せて展示することで充実した展覧会となり来館者を飽きさせることなく、アンケート結果も好評であった。	【評価 B】 新たな試みで始めた土佐山田町商店街にあるギャラリーと美術館の合同企画「土佐山田アート・リンク」が日本画をテーマにスタンプラリー形式で開催した。参加者も多く作成したマップを頼りにまわられて楽しいと好評で、初めての来館者も多く、その中にはまた参加したいとの声も多かった。 鑑賞教育が小学校以外では中学校の初参加があった。 1.アトリエ講座の参加率88% 2.小・中学校への出前講座7校(小学校のみ) 3.情報誌・情報サイトによる掲載を2社増やした 4.収蔵作品の展覧会年2回、活用率83.8%達成	3	3	3	3	3	3		美術館の収蔵作品を活用した展覧会で来館者を増やし、香美市内外の方に広く美術館を利用してもらう。 1.アトリエ講座の参加率89% 2.小中学校全校への出前講座10校 3.情報サイトによる掲載を3社 4.収蔵作品の展覧会年6回、活用率85%
(生)	生涯スポーツの推進	・香美市体育大会や軽スポーツ大会、ファミリースポーツフェスティバル、体カテスト等の開催。 ・県民スポーツフェスティバル等への参加の周知。 ・市広報を中心に各種大会等の情報を提供、市ホームページでの情報提供の充実を図る。 ・ホームページの充実。 ・体育施設の計画的な改修、整備を行う。 ・スポーツ推進委員や体育協会、スポーツ少年団、庁内関係各部署等と連携した生涯スポーツの推進。	市民がそれぞれの世代に応じた運動やスポーツを行えるように、そのきっかけづくりとなる各種大会やスポーツイベントの開催数がまだまだ少ない。ストレスや運動不足、食生活の変化等が生活習慣病を生み出している。日常生活の中で生涯にわたってスポーツを楽しむことは、健康の保持増進や体力の向上を促し、生きがいのある豊かな暮らしに役立つものであり、子どもや高齢者、障害者を含むすべての市民が気軽にスポーツを楽しむことができる環境整備に努める必要がある。 市民グラウンドの改修工事を令和2年度に予定していたが、財政的な問題から令和3年度からの改修となった。 (令和2年度実績) 1.各種大会やイベント開催数 年4回 2.体育施設等年間利用者数 123,866人	市民がそれぞれの世代に応じた運動やスポーツを行えるように、そのきっかけづくりとなる各種大会やスポーツイベントの開催数がまだまだ少ない。ストレスや運動不足、食生活の変化等が生活習慣病を生み出している。日常生活の中で生涯にわたってスポーツを楽しむことは、健康の保持増進や体力の向上を促し、生きがいのある豊かな暮らしに役立つものであり、子どもや高齢者、障害者を含むすべての市民が気軽にスポーツを楽しむことができる環境整備に努める必要がある。 (※新型コロナウイルス感染拡大防止のため令和3年度は各種大会等の実施を中止する可能性あり。) 1.各種大会やイベント開催数 年40回 2.体育施設等年間利用者数 170,000人 (※新型コロナウイルス感染拡大防止のため令和3年度は各種大会等の実施を中止する可能性あり。)	・香美市体育大会や軽スポーツ大会、ファミリースポーツフェスティバル、体カテスト等の開催。 ・県民スポーツフェスティバル等への参加の周知。 ・市広報を中心に各種大会等の情報を提供、市ホームページでの情報提供を行う。 ・体育施設の計画的な改修、整備を行う。 ・スポーツ推進委員や体育協会、スポーツ少年団、庁内関係各部署等と連携した生涯スポーツの推進。 (※新型コロナウイルス感染拡大防止のため令和3年度は各種大会等の実施を中止する可能性あり。) ・市民グラウンドについてはプールの解体が終了し、令和4年度中のリニューアルオープンに向けて改修工事が行われる。	【評価 C】 ・香美市体育大会や、体カテスト、ファミリースポーツフェスティバル等各種スポーツイベントが新型コロナウイルス感染防止のため軒並み中止となったが、グラウンドゴルフ、マレットゴルフの大会は開催することができた。 ・ウオーキングイベントの参加についてホームページへの掲載やチラシの配布等での情報提供を行った。 ・市民グラウンドについてはプールの解体が終了し、令和4年度中のリニューアルオープンに向けて改修工事が行われる。	【評価 C】 1.各種大会やイベント開催数については、新型コロナウイルス感染防止のため、大会は2種目のみの開催となった。また、県民スポーツフェスティバルへ2種目の参加があった。 2.体育施設等年間利用者数 約61,000人 3.1回30分以上の軽く汗をかく運動を週2回以上、1年以上実施している人の実施率: アンケート未実施 以上の数値は、令和3年12月途中までの実績。 実施率については、毎年のアンケート調査はできないので、本年度の実施率は不明。	2	2	2	2	2	2		子どもや高齢者、障害者を含むすべての方が、それぞれの世代に応じた運動やスポーツを主体的に継続して行い、健康の保持増進や体力の向上を促し、生きがいをもち豊かに暮らす。 1.各種大会やイベント等の年間の延べ開催数 50回 2.香美市内の体育施設等の年間利用者数 175,000人 3.1回30分以上の軽く汗をかく運動を週2回以上、1年以上実施している人の実施率を40% 4.施設の計画的な改修、整備 土佐山田スタジアムの人工芝の張替え 市民グラウンドの改修 その他計画的な改修や整備を行う。
(生)	市民のニーズに沿った地域の教育力を高める公民館活動	・各教室・公民館・地区公民館等で、利用者からアンケート等を取り、市民が興味のある企画を調査。 ・人材バンクの学校・地区公民館・登録者との中継ぎ ・市民大学、市民セミナー等の中央公民館主催の教室、地区公民館主催の教室	1.中央公民館主催の事業では参加者アンケートを実施しニーズに沿った教室等開催を計画している。幅広い年齢層の方に、多く参加してもらえるよう内容等の見直しが課題。また、地区公民館での各事業は地域の高齢化等に伴い参加者が減少し、事業も縮小傾向になっている。集まりやすい事業の工夫が必要である。 2.市民大学、市民セミナー等の中央公民館主催の教室、地区公民館主催の教室 3.人材バンクの登録者があまり増えていない。広く周知し応募してもらえるよう情報発信をする必要がある。人材バンク登録者数25名(R2年度末現)	市民のニーズに対応した講師の選定、新たな教室等を企画し、市民の交流の場、生涯学習の場となる。 1.公民館主催事業の参加者 1,500名/年 2.公民館利用経験割合 中央公民館 70% 地区公民館 60% 3.生涯学習に関する講師・指導者を登録 人材バンク登録者数 30名	1.中央公民館、地区公民館主催事業等で、参加者アンケートを実施し、ニーズを捉える。主催事業 ・市民大学 2本 ・市民セミナー 11本 2.市民大学、市民セミナー等の中央公民館主催の教室、地区公民館主催の教室 ・市民大学 2本 ・市民セミナー 11本 地区公民館 体操教室、文化教室(生花・手芸)、運動教室(グラウンドゴルフ・卓球)、地域の祭りやイベントへの協力【繁藤・平山・佐岡】 3.各校のコミュニティスクールや地域学校協働活動推進員への協力依頼	【評価 B】 ①中央公民館主催の事業では、市民セミナー、英会話教室にてアンケート調査を行った。 ②人材バンクは、のべ28名の方に登録していただいた。(セミナー85名放課後子ども教室542名 計627名) ③人材バンク登録者への講座依頼などは6件。	【評価 C】 1.公民館主催事業は、新型コロナ感染拡大防止のため市民大学を中止するなどの影響により参加者1,500名/年を目標としたがコロナの影響で達成は出来ない。(セミナー85名放課後子ども教室542名 計627名) 2.公民館利用経験割合 コロナの影響により長期間休館したため利用体験についての調査は実施していないが、令和2年度に中央公民館に設置した換気設備(網戸)について来館者(サークル)に対してアンケートを実施した。 3.生涯学習に関連する講師・指導者を登録(再登録) 人材バンク「まちの先生」登録者数28名	2	2	2	2	2	2		市民のニーズに対応した講師の選定、新たな教室等を企画し、市民の交流の場、生涯学習の場となる。 1.公民館主催事業の参加者 3,500名/年 2.公民館利用経験割合 中央公民館 70% 地区公民館 60% 3.生涯学習に関連する講師・指導者を登録 人材バンク登録者数 300名



<視点3>

夢を育み、新たな価値を創造する教育を展開します

【関係性】到達目標の達成状況 A:4.3 B:3.2 C:1

(3) 生涯を通じた豊かな学びと文化・芸術、スポーツ活動の充実

行動実績・到達目標の達成状況の内部評価  
A: 目標(予定)を達成できた、B: 目標(予定)を一部達成できなかった、C: 目標(予定)をほとんど達成できなかった

内部評価  
4: 想定以上の成果、3: 概ね想定どおりの成果、2: 成果が得られたが改善が必要、1: 見直しが必要

対策名	取組の概要	年度当初の現状(課題等)	具体的な到達目標(有るべき姿・望ましい状況)	具体的な取り組み(計画・実施)	行動実績	到達目標の達成状況	内部評価					令和5年度末達成目標(後期到達目標)	
							内部評価	外部評価	R1	R2	R3		R4
④ 香美市読書活動の推進  (生学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書館利用者及び貸出の増加促進</li> <li>アウトリーチサービスの推進</li> <li>ボランティアと協働した図書館づくり</li> <li>中学生・高校生の利用の促進</li> <li>子ども司書養成講座の推進</li> <li>および受講者の確保</li> <li>学校との連携</li> <li>オーテピア高知図書館との連携</li> <li>高知工科大学との連携</li> </ul>	<p>市の1人あたりの年間貸出冊数は、同人口規模の1人あたりの年間貸出冊数の平均(4.7冊)よりも下回っている。新図書館開館に向けて十分な資料整備が必要である。</p> <p>学校との連携に関しては、資料要求に応えることができるよう、新教科書に対応した資料整備をしていかなければならない。</p> <p>1.1人あたりの年間貸出冊数 3.05冊(令和2年1月1日～令和2年12月31日までの実績)</p> <p>2.子ども司書養成講座はコロナウイルス感染拡大防止のため、令和2年度は中止</p> <p>3.学校からの貸出依頼件数 本館 30件 香北分館 29件 物部分館 5件 合計 64件(令和2年1月1日～令和2年12月31日までの実績)</p>	<p>1.年間一人あたりの貸出冊数を4冊以上にする。</p> <p>2.子ども司書新規資格取得者を小学校5・6年生児童数の5%以上にする。</p> <p>3.学校からの貸出依頼件数を50件以上にする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書館利用者及び貸出の増加促進を図る。</li> <li>寄贈圖書の整理、分館との資料交換、高知工科大学の長期借受などにより資料の新鮮さを図る。</li> <li>アウトリーチサービスを推進する。</li> <li>中学生・高校生の利用の促進を図る。(ティーンズ通信の発行、ナツボラの取組)</li> <li>学校、図書支援員との連携を密にし、子ども司書養成講座を推奨し、受講者を確保する。</li> <li>出前授業、探究的な学習への支援をする。</li> <li>ボランティアと協働した図書館づくり(ブックスタート・イベント・お話し会など)</li> <li>高知工科大学、オーテピア高知図書館との連携を図る。</li> </ul>	<p>【評価 B】</p> <p>①図書館利用者及び貸出冊数の増加促進を図るよう、館内の展示や配架方法を工夫した。</p> <p>②蔵書の見直しをかけ、寄贈圖書の整理、分館との資料交換、高知工科大学の長期借受などにより資料の新鮮さを図った。</p> <p>③アウトリーチサービスを推進し、利用団体を増加させることができた。</p> <p>④中学生・高校生の利用の促進を図るためティーンズ向けの図書を購入した。また、高校生向けの図書館ボランティアを募り、図書館を身近に感じてもらえる機会をつくることができた。</p> <p>⑤子ども司書養成講座の受講生は、コロナウイルス対策もあり、募集人数を少なくした。今年度は14名の受講生が子ども司書に認定された。</p> <p>⑥探究的な学習への支援を行うよう図書館訪問を積極的に受け入れた。</p> <p>⑦ボランティアと協働した図書館づくりを行い、新図書館に向けたラベルの貼替作業などの取り組みを行った。</p> <p>⑧高知工科大学、オーテピア高知図書館との連携を密にし、図書館運営をより豊かなものとした。</p>	<p>【評価 B】</p> <p>1.年間一人あたりの貸出冊数は 3.5冊であった。</p> <p>○令和3年12月31日現在の香美市人口 25,676人</p> <p>○令和3年1月1日から令和3年12月31日の貸出冊数(団体貸出を除く) 88,900冊</p> <p>2.「子ども司書」養成講座認定者 14名(小学校5・6年生の人数 355名の3.9%)※コロナウイルス感染拡大防止のため募集人数を少なくしたため目標数には到達せず。</p> <p>3.学校からの貸出依頼件数を50件以上にする。</p> <p>【件数】(令和3年1月1日から令和3年12月31日)</p> <p>本館 53件 香北分館 3件 物部分館 2件 合計58件</p>	3	3	①子ども読書活動の推進	②子ども読書活動の充実	③子ども司書要請講座	④アウトリーチサービス	<p>生涯にわたって学ぶことができる図書館として、学ぶための環境整備や各年代層に合う資料の整備をする。また、地域・家庭・学校等と連携し、読書活動の推進を図る。</p> <p>1.年間1人あたりの貸出冊数 4.7冊</p> <p>2.子ども司書新規有資格者率(小5・6年) 児童数の5%</p> <p>3.学校からの貸出依頼件数 50件</p>
⑤ 人権教育の推進  (生学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権講演会や人権映画上映会の開催</li> <li>人権教育学習会の開催、広報活動</li> <li>小中学校人権学習で使用できるリーフレットの作成</li> <li>小中学校の人権参観日、家庭・教職員の研修と支援</li> </ul>	<p>市民一人ひとりが人権を尊重することの重要性を正しく認識し、自分や他者を大切に、人権への配慮が態度や行動に現れるような人権感覚を身に付けることができる取組が必要。</p> <p>学校では、「いじめ」撲滅のため、児童生徒が互いに人権意識を高め、「いじめ」を発生しない集団づくりを行う必要がある。</p> <p>1.人権啓発講演会参加者数 0名(令和2年度実績)</p> <p>※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止</p> <p>2.高知県人権教育研究大会参加者数 0名(令和2年度実績)</p> <p>※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止</p> <p>3.小中累計いじめ認知件数 188件。(R2学校別いじめ調査)コロナ禍におけるいじめ認知は、例年以上にアンテナ高く行い、初期対応を迅速に行う。</p>	<p>市民一人ひとりが人権を尊重することの重要性を正しく認識し、自分や他者を大切に、人権への配慮が態度や行動に現れるような人権感覚を身に付けることができる取組が必要。</p> <p>学校では、「いじめ」撲滅のため、児童生徒が互いに人権意識を高め、「いじめ」を発生しない集団づくりを行う必要がある。</p> <p>1.人権啓発講演会参加者数 100名</p> <p>2.高知県人権教育研究大会参加者数 90名</p> <p>3.小中累計いじめ認知件数 各校1件以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権に関する講演会や映画上映会の開催。</li> <li>人権教育学習会の開催。</li> <li>人権広報あけぼの等、各種媒体を活用し、講演会等への参加を促す。</li> <li>各関係団体と連携を図り人権教育を推進する。</li> <li>小中学校人権学習で使用できるリーフレットの作成</li> <li>小中学校の人権参観日、家庭・教職員の研修と支援</li> </ul>	<p>【評価 B】</p> <p>・市民対象の研修会、じんけんサークルまごころを開催(2月末までに年5回開催予定)</p> <p>・関係団体と連携を図り、啓発活動を実施</p> <p>・人権参観日、家庭・教職員の研修は、設定時期によっては中止となった学校も一部あったが、教職員研修は全小中学校実施できた。</p>	<p>【評価 C】</p> <p>1.人権啓発講演会 未実施</p> <p>2.高知県人権教育研究大会 未実施</p> <p>3.小中累計いじめ認知件数 各校1件以上(未達成3校)</p>	2	2	①人権啓発事業	②人権学習会の開催	③人権教育副読本作成事業	②学校での人権研修の開催	<p>市民の人権意識が高まり、互いの立場や思いを尊重できるようになる。学校が、「いじめ」を見逃さない、「いじめ」を発生させず、安心して学校生活を過ごせる場になる。</p> <p>1.講演会、映画上映会集客数 各150人</p> <p>2.高知県人権教育研究大会 100人</p> <p>3.小中いじめ認知件数 各校1件以上未解消数0件</p>